

京都市立芸術大学

Kyoto City University of Arts — founded in 1880 —

日本伝統音楽研究センター
所報

第13号 2012年6月



Newsletter
of the
Research Centre for Japanese Traditional Music
Kyoto City University of Arts

No.13 June 2012

目 次

研究活動レポート 1	プロジェクト研究・共同研究の報告	1
2	非常勤講師の研究報告	8
公開活動レポート 1	公開講座	19
2	でんおん連続講座	24
3	伝音セミナー	29
専任教員の活動報告		31
彙 報		39
日本伝統音楽研究センター概要		43

プロジェクト研究・共同研究の報告
平成23(2011)年度

〈プロジェクト研究・継続〉

音楽・芸能史における芸術化の諸問題

研究代表者：後藤静夫

共同研究員：石山祥子（鳥根県教育庁文化財課・古代文化センター特認研究員）、今田健太郎（大手前大学他非常勤講師）、上田学（早稲田大学坪内博士記念演劇博物館助手）、奥中康人（静岡文化芸術大学准教授）、川村清志（札幌大学文化学部教授）、笹川慶子（関西大学准教授）、笹原亮二（国立民族学博物館准教授）、澤井万七美（国立沖縄工業高等専門学校准教授）、末松憲子（精華大学特別研究員）、竹内有一（本センター准教授）、竹原明理（大阪大学大学院）、龍城千与枝（早稲田大学大学院）、寺田詩麻（共立女子大学非常勤講師）、寺田真由美（神戸大学大学院）、土居郁雄（国立文楽劇場）、廣井榮子（大阪教育大学他非常勤講師）、細田明宏（帝京大学准教授）、真鍋昌賢（北九州市立大学准教授）、横田洋（大阪大学総合学術博物館研究支援推進員）

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センターにおける、2005年度から2007年度の3年間にわたる「近代日本における音楽・芸能の再検討」プロジェクトでは、音楽・芸能にとって「近代」とはいかなる時代であり、音楽・芸能はどのように「近代」に対応してきたかを検討した。

本プロジェクトでは、それらの検討を下敷きとして、音楽・芸能の「芸術化」の諸問題を、消滅し或いは「芸術化」しなかった事例も含め、議論・検討を行った。その際、前プロジェクトの視点に加え、音楽・芸能の歴史叙述、関係者の言説、研究史等の再検討も行い、必用に応じて「前近代」の事例も取り上げた。

今年度はその成果報告書作成のため、各班員の掲載予定原稿の検討を中心に研究会を開催した。（なお、開催場所は特に断らない限り、京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 合同研究室2である。）

第1回研究会 2011・07・10（日）

発表：石山祥子（コメンテーター：川村清志）「黒川能演目分配協議と新曲登録合戦について」

発表：竹原明理（コメンテーター：土居郁雄）「昭和初期における生き人形と「人形芸術」形成をめぐる」

第2回研究会 2011・08・13（土）

発表：上田学（コメンテーター：今田健太郎、横田洋、真鍋昌賢）「寄席から映画館へ—近代の寄席における視覚文化とその分離」

発表：土居郁雄（コメンテーター：真鍋昌賢、寺田真由美）「活人形復権の奇跡—一年表で追う—」

第3回研究会 2011・09・03（土）

発表：後藤静夫（コメンテーター：細田明宏、寺田詩麻）「人形浄瑠璃・文楽の立体的大道具=屋台の成立について」

発表：末松憲子（コメンテーター：澤

井万七美）「『小鍛冶』物の略縁起と芸能のかかわり」

第4回研究会 2011・09・23（金・祝）

発表：澤井万七美（コメンテーター：真鍋昌賢、後藤静夫）「水也田呑洲の琵琶講談」

発表：寺田真由美（コメンテーター：今田健太郎）「江戸末期から明治期におけるはやり唄、座敷唄～明治期の天津絵節の楽曲構造と音楽的特徴」

発表：細田明宏（コメンテーター：石山祥子）「『民俗芸能』化する地方人形座—新作浄瑠璃の題材をめぐる—」

〈プロジェクト研究・新規〉

三味線音楽の音楽様式研究—町田佳聲の旋律型研究を中心に—

研究代表者：山田智恵子

共同研究員：大久保真利子（大阪芸術大学大学院芸術研究科研究員）、小塩さとみ（宮城教育大学准教授）、蒲生郷昭（東京文化財研究所名誉研究員、日本大学芸術学部非常勤講師）、久保田敏子（伝音センター所長）、竹内有一（伝音センター准教授）、龍城千与枝（早稲田大学大学院）、田中悠美子（くらしき作陽大学音楽学部非常勤講師）、寺田真由美（神戸大学大学院）、時田アリソン（東京工業大学外国語研究教育センター教授）、廣井榮子（相愛大学他非常勤講師）、吉野雪子（国立音楽大学非常勤講師）

ゲストスピーカー：野川美穂子（東京芸術大学他非常勤講師）、配川美加（東京芸術大学非常勤講師）、杉浦聡（三味線音楽演奏家・研究家）

平成21年度、22年度の2年間にわたり、共同研究「町田佳聲の三味線音楽研究—三味線音楽の通ジャンルの音楽研究に向けて」を開催し、主として、町田の没後東洋音楽学会の手により校訂編集された『三味線声曲における旋律型の研究』（東洋音楽研究第47号・第2分冊、以下学会校訂版と略称）の再検証を行ってきた。町田の三味線音楽研究は、大正から昭和30年代にかけての三味線音楽研究の一つのあり方を示すとともに、町田以後の世代にも大きな影響を与えてきた。しかしながら、この学会校訂版にはいくつかの疑問点も指摘されていた上に、町田が当時どのようにしてこの研究を行ったのかについて、現在まで全く検討されてこなかった。そこで、2年間の共同研究において、

各共同研究員がそれぞれの専門領域ごとに分担し、相互検討を加えて検証を行うこととした。その検証過程で、二度町田遺品資料調査を行い、従来未発見の町田の自筆稿本をほぼ発見できた。それらの新発見資料を比較検討資料として追加した上で、今後の三味線音楽研究に役立つよう、資料批判結果の公開を目指した。

このプロジェクト研究では、前2年間の共同研究をふまえた上で、現在の三味線音楽研究の多様性を示すべく、各研究者が独自の研究成果を発表し、相互検討する。現在の三味線音楽研究は、町田のような通ジャンルの研究というより、個別的専門的に深化している。また、三味線音楽の音楽面の研究そのものが少ないのが現状だ。このプロジェクト研究により、今後の三味線音楽研究の活性化と通ジャンルの視点の獲得に寄与できれば幸いである。また、前共同研究において行った町田の旋律型研究の資料批判結果について、引き続き公開に向けた取りまとめ作業とデータベース化作業も行う予定である。

今年度の研究会の開催は以下の通りである。

第1回研究会 2011年6月4日(土)

10:00-18:30、合同研究室2

- (1) 研究会のための資料作成部会
- (2) 研究発表「ふし、曲節、旋律、旋律型、そして町田佳聲」蒲生郷昭
- (3) 全体討論(全員)

第2回研究会 2011年6月5日(日)

10:30-17:00、合同研究室2

- (1) 報告「旋律型などについての説明文の文言比較検討その2」寺田真由美
- (2) 「町田旋律型研究」比較データ入力の進捗状況報告(全員)
- (3) 報告書内容検討(全員)

第3回研究会 2011年7月30日(土)

12:00-18:00、合同研究室2

- (1) 「町田の河東節研究-本ブシについて」吉野雪子
- (2) 全体討論
- (3) 旋律型研究比較データ入力経過報告(全員)

第4回研究会 2011年9月16日(金)

10:30-17:00、日本民謡協会

・日本民謡協会において町田遺品調査

第5回研究会 2011年9月17日(土)

10:30-18:00、東京工業大学大岡山キャンパス 外国語研究教育センター大会議室

- (1) 研究発表「邦楽調査掛における『調査』と『保存』の意味—長唄の五線譜化を中心に」大久保真利子
- (2) 研究発表「江戸末期から明治期におけるはやり唄、座敷唄—明治期の大津絵節の旋律型と音楽的特徴」寺田真由美
- (3) 研究発表「町田の旋律型研究が目指したものを考える—語り物研究者としての経験と立場から」時田アリソン

第6回研究会 2011年11月26日(土)

10:00-18:00、研究員室2, 803研究室
・研究会資料作成のための作業部会 大久保真利子、寺田真由美、山田恵智子

第7回研究会 2012年1月28日(土)

12:00-20:00、合同研究室2

- (1) 町田旋律型の研究比較データ入力

方法の再検討 大久保真利子

(2) 「杉浦聡氏に三味線音楽の通ジャンルの旋律型について聞く―主として一中節、河東節、新内節、宮内節の旋律型について」、実演とお話：杉浦 聡、聞き手：吉野雪子、ディスカッション：全員

第8回研究会 2012年1月29日(日)

10:30-17:30、合同研究室2

(1) 今後の発表スケジュール調整

(2) ゲストスピーカー研究発表「地歌の繁太夫物の旋律型について」野川美穂子、全員討論

(3) ゲストスピーカー研究発表「長唄における一中節・河東節の旋律型」配川美加、全員討論

第9回研究会 2012年3月11日(日)

11:00-18:30、合同研究室1

・町田旋律型の研究各版比較表データ統合の結果と検討 大久保真利子

〈共同研究・継続〉

歌舞伎の地方(じかた)―伝承と演出、歴史と現在―

研究代表者：竹内有一

共同研究員：赤間亮(近世文学、立命館大学教授)、マーク大島(歌舞伎研究、清元節演奏家)、大西秀紀(近代芸能史、本センター非常勤講師)、児玉竜一(近世文学、早稲田大学教授)、鈴木英一(近世文学、聖学院大学非常勤講師)、田口章子(近世文学、京都造形芸術大学教授)、武内恵美子(日本音楽史、秋田大学准教授)、土田牧子(日本音楽史、東京芸術大学博士後期課程)、配川美加(日本音楽史、東京芸術大学非常勤講師)、前島美保(日本音楽史、東京芸術大学博士後期課程)

音楽と音がなければ、歌舞伎は幕を明くことができない。歌舞伎における音楽の担い手は、「地方(じかた)」と通称され、単なる演奏家とは異なった、独特の役割や技術を有する。彼らが果たしてきた役割の歴史の変遷、音楽的意義、演劇・舞踊との関わり方等を考察するために、いくつかの課題を設定して、個人または共同による調査・研究・意見交換・取材・それらの公開を行う。地方やその音楽の将来へ向けた展望も視野に入れ、実演・制作の関係者との提携も重視する。

今年度上半期は、長唄の唄方および三味線方・囃子方の演奏表現を支えている基本的な技術と伝承者の意識について再考するための聞き取り調査を行った。その成果の一端は、公開講座「長唄の美と魅力」(9月4日)における実演家へのインタビュー、芸談、パンフレット作成において活用し公開を行った。

第1回研究会 2011年9月2日(金)

11:00-14:00

場所：千里中央よみうり文化センター

内容：長唄三味線方の今藤政太郎師、

長唄唄方の今藤政貴師をゲストスピーカーに招き、長唄「勸進帳」の演奏表現における今藤流の特色等について、竹内・配川が聞き取り調査を行った。

第2回研究会 2011年9月4日(日)

11:00-13:00、場所：京都市立京都堀川音楽高等学校音楽ホール

内容：長唄三味線方の今藤美治郎師、長唄唄方の今藤政之祐師、囃子方の藤舎貴生師をゲストスピーカーに招き、長唄および囃子における表現技法を裏付けている技術と意識等について、竹内・配川が聞き取り調査を行った。

第3回研究会 2011年9月5日(月)

13:00-16:00、場所：新歌舞伎座(大阪市)

内容：歌舞伎の義太夫節三味線方の鶴澤慎治師を招き、歌舞伎興行における義太夫節の現状と課題について、全員で意見交換を行った。

第4回研究会 2012年1月28日(土)

15:00-20:00、場所：合同研究室2ほか

内容：山田智恵子教授プロジェクト研究の第7回研究会に部分参加し、三味線音楽の通ジャンルの旋律型について意見交換を行った。また、今後の研究計画に関するミーティングを行った。

第5回研究会 2012年11月29日(日)

13:00-17:00、場所：合同研究室2ほか

内容：山田智恵子教授プロジェクト研究の第8回研究会に部分参加し、地歌の繁太夫物、長唄における一中節・河東節の旋律型について意見交換を行った。また、今後の研究計画に関するミーティングを行った。

第6回研究会 2012年3月23日(金)、

13:00-17:00、場所：合同研究室2

内容：近年の資料研究の動向に関する研究報告と意見交換



- (1) 赤間亮「竹内道敬文庫のデジタル化と国立目録データを活用した歌舞伎WEB年表との連動」
- (2) 大西秀紀「もうひとつの歌舞伎SPレコード—歌舞伎音楽が描く「聴く歌舞伎」—」
- (3) 土田牧子「雑誌記事における陰囃

- 子関連記事」
- (4) 竹内有一「『常磐津節演奏者名鑑』のコンセプト」
- ゲストコメンテーター：竹内道敬（元国立音楽大学教授）、吉野雪子（国立音楽大学非常勤講師）

〈共同研究・新規〉

京観世の記録化

研究代表者：藤田隆則

共同研究員：荒木亮、上野正章、恵阪悟、大谷節子（神戸女子大学）、大西秀紀、五島邦治（京都造形芸術大学）、高桑いづみ（東京文化財研究所）、高橋葉子、中尾薫（大阪大学）、宮本圭造（法政大学）

「京観世」という言葉はお菓子の銘柄としてよく知られているが、能の世界における、その指示対象は必ずしも明確ではない。「京観世」は、京都で伝承されてきた、東京やほかの地域とはことなつた芸質をもつた観世流の謡や舞をばくぜんとさす言葉であるにすぎない。にもかかわらず、「京観世」という言葉でさしめされてきた謡の伝承の中には、音楽史的にも古層とみることができ要素、あるいはまた、町衆主導の伝承の中でうまれた独自の特徴も見いだしうるのである。そういった特徴をより豊かに描くために、この研究会は、謡の音楽的な特徴の解明のみならず、謡が素人を中心にしてひろく行われてきたその実態、文化史的な背景を明らかにしたい。

第1回研究会 2011年6月11日（土）

13：30～17：00、場所：京都市立芸術大学新研究棟7階合同研究室

1. 藤田隆則 ①研究会の目標・活動計画の提示と確認 ②田中基次本の紹介 ③京観世の録音を聞く：鈴木吉三他インタビュー録音
2. 大谷節子 ①京観世と岩井家について総説 ②岩井七郎衛門家新出資料の紹介

第2回研究会 2011年7月9日（土）

13：30～17：00、場所：京都市立芸術大学新研究棟7階合同研究室

1. 藤田隆則 録音記録を聞く：上田善一郎・亮三／三須・前西（1980年6月26日 インタビュー）
2. 高桑いづみ 田中基次本と常磐会本の節付比較『野守』
3. 高橋葉子 田中基次本と常磐会本の節付比較『清経』

4. 大谷節子 『アヤハトリ』『色定法聞書』等の資料紹介

5. 全員 『アヤハトリ』内容の読解作業

第3回研究会 2011年8月20日(土)

13:30~17:00、場所:京都市立芸術大学新研究棟7階合同研究室

1. 藤田隆則 ①全体計画の再提示と確認 ②インタビュー録音を聞く

2. 荒木亮 常磐会謡本の歴史と特徴について

3. 高橋葉子 田中基次本と常磐会本のアタリとイロの記号の使用例検討

第4回研究会 2011年9月12日(月)

13:30~17:00、場所:京都市立芸術大学新研究棟7階合同研究室

1. 藤田隆則 録音を聞く:上田兄弟インタビュー 蘭曲『定家一字題』

2. 五島清子 父浅井宗宏(井上嘉介の弟子)の謡と当時の稽古の様子などを語る

3. 荒木亮・全員 『アヤハトリ』の読解

第5回研究会 2011年10月14日(金)

13:30~17:00、場所:京都市立芸術大学新研究棟7階合同研究室

1. 藤田隆則・荒木亮 『あやはとり』の現代語訳と検討

2. 大西秀紀 ①昭和28年1月収録井上嘉介追善レコードの紹介 ②昭和2年1月版オリエントレコード目録の紹介

第6回研究会 2011年11月13日(日)

13:30~17:00、場所:京都市立芸術大学新研究棟7階合同研究室

1. 荒木亮 『アヤハトリ』現代語訳の整備

2. 藤田隆則 謡の構成音の音位と音程、地拍子の基礎の確認—謡本から旋律を読み取るために

第7回研究会 2011年11月25日(金)

13:30~17:00、場所:京都市立芸術大学新研究棟7階合同研究室

1. 上野正章 『京都日出新聞』の調査に基づく明治43年(1910)の京都における能楽と謡の状況:明治43年の謡曲界・乱舞界の記事および文化関係の記事を読む

2. 藤田隆則 録音を聞く:昭和45年8月上田東一郎/浅井宗宏

3. 大谷節子 『そなえはた』概説

第8回研究会 2011年12月23日(金)

13:30~17:00、場所:京都市立芸術大学新研究棟7階合同研究室

資料配布(藤田隆則 丹下直次郎氏インタビュー記録/上野正章 京都日出新聞記事補足分)

1. 五島邦治 所蔵謡本の直シについて

2. 高橋葉子 元章自筆の直シと明和本直シの比較:『関寺小町』『蟬丸』の下ゲゴマ・アタリ・イロの記号について

3. 大谷節子 『そなえはた』序文読み下し

第9回研究会 2012年2月19日(日)

13:30~17:00、場所:京都市立芸術大学新研究棟7階合同研究室

1. 高桑いづみ 下ゲゴマについて

2. 藤田隆則 録音を聞く

3. 全員 『そなえはた』解説

非常勤講師（特別研究員）の研究報告

平成 23（2011）年度

〔平成 23 年度伝音セミナー使用曲〕

大西秀紀

平成 16 年より始まった「伝音セミナー 日本の希少音楽資源にふれる」は、例年当センターの専任・非常勤教員が各自の専門分野を中心に、全 8・9 回をそれぞれ分担していたが、平成 23 年度は大西が全 8 回の構成・選曲・配布資料・案内役を担当し、その内第 2、5、6、7、8 回の解説を久保田敏子所長（現・本校名誉教授）に、第 3 回の解説を竹内有一准教授にそれぞれお願いした。各回に使用した音源は次の通りである。

○第 1 回「『SP レコードレーベルに見る 日蓄 - 日本コロムビアの歴史』を聴く」

2011.05.12

- * 「浪花節 神崎後日物語（上）」2 吉田奈良丸
ニッポノホン 1894（大正 2 年 1 月発売）
- * 「義太夫 朝顔日記」豊竹呂昇〈浄・三〉
ローヤル 2058（明治 44- 大正 2 年発売カ）
- * 「謡 弱法師」梅若万三郎、石田清吉〈大鼓〉、三須平司〈小鼓〉、一噌要三郎〈笛〉
ローヤル 1501（明治 43 年発売）
- * 「昔の浅草奥山」東京浅草 お馴染み玉乗り一座 口上 橋家万笑
ニッポノホン 121（大正 4 年発売カ）
- * 「お伽歌劇 ドンブラコ」北村季晴・初子、帝国劇場オペラ及びオケストラ部員
アメリカン 2390（第 5 面）（大正 2 年 8 月発売）
- * 「桃太郎・日の丸旗」日蓄歌劇部員、桃太郎レコード 11（大正 5 年発売）
- * 「LOVE OF MOTHER LAND SONG OF URAL」MARIA KARINSKAIYA〈唄〉
インターナショナル 3206（大正 7 年 9 月発売カ）
- * 「掛合義太夫 千本桜道行（下）」堀江廓義太夫名妓連
ニッポノホン 17502-B（昭和 5 年 6 月発売）
- * 「ジャズコーラス 街の人気者（クイックステップ）」
中野忠晴とコロムビア・リズム・ボーイズ〈唄〉、コロムビア・ジャズバンド
コロムビア 28033-A（昭和 9 年 10 月発売、音源提供：仲辻秀綱氏）
- * 「女性四部合唱・独唱付 さくら」木下保指揮、東京音楽学校生徒

- コロムビア 33435-B (昭和12年4月発売)
- * 「童謡連曲 人形」 飯田ふさ江、田中陽子、外児童〈唄〉、管弦楽伴奏
コロムビア 33602-B (昭和14年3月発売)
- * 「満州鉄道唱歌(上)」 霧島昇、松原操〈唄〉、コロムビア・オーケストラ
コロムビア 30435 (昭和14年12月発売、音源提供: 仲辻秀綱氏)
- * 「松竹少女歌劇団 大阪名物年中行事 春のおどり宣伝盤」、勝浦千浪〈タップ〉、京マチ子〈台詞〉、水上ましろ、草鹿多美子〈唄〉、松竹爆音部隊〈伴奏〉
コロムビア A-655 (昭和16年制作)
- * 「久米歌」(解説・田鍬智志非常勤講師)
多忠龍〈拍子〉、東儀民四郎〈箏篋〉、多重雄〈笛〉、東儀和太郎〈和琴〉
コロムビア 35411 (『伊庭孝撰 日本音楽史(邦楽傑作集第49輯)』、昭和9年2月発売)
- * 「馬見岡綿向神社 登り山」(解説・齊籐尚学芸員) 日野曳山囃子連中
リーガル 150279 (昭和16年9月臨時発売)
- * 「ロカビリ-剣法」 美空ひばり〈唄〉、コロムビア・オーケストラ
コロムビア A3037 (昭和33年6月発売、音源提供: 仲辻秀綱氏)
- * 「義太夫 堀川 猿廻し」
3 竹本大隅太夫〈浄〉、3 豊沢団平〈三〉、1 豊仙仙之助〈ツレ〉
シンホニー 32 / 33 (明治43年5月発売)

○第2回「菊原琴治を聴く」2011.06.02

- * 「野川流三味線組歌 表組 鳥組」 菊原琴治〈歌・三〉
ダイヤモンド 5023-5024 (昭和13-14年制作カ)
※再生は復刻LP(日本ビクター PRC-1018 昭和37年)を使用
- * 《映像》「野川流三味線組歌 奥組 晴嵐」 菊原初子〈三〉
日本ビクター VTMV-125、(『音楽を中心に見た 日本古典芸能史II』、平成3年)
- * 「野川流三味線組歌 奥組 晴嵐」 菊原琴治〈歌・三〉
コッカ 51021A (昭和13-14年制作カ)
※再生は復刻LP(日本ビクター PRD-1003 昭和38年)を使用
- * 「晴嵐・乱後夜打合せ」 三弦 菊原初子・富山清琴
東芝 EMI THX-90214 (『三味線古譜の研究』、昭和58年発売)
- * 「野川流三味線組歌 破手組 待つにござれ」 菊原琴治〈歌・三〉
ダイヤモンド 5020-5022 (昭和13-14年制作カ)
※再生は復刻LP(日本ビクター PRC-1019 昭和37年)を使用
- * 「合奏 八千代獅子」 甲賀夢仙〈サキソホン〉、菊原琴治〈歌・三〉、他

米ビクター 11487 (明治 41 年発売)

- * 「表組 梅ヶ枝」 菊原琴治 〈歌・箏〉

ニッソー委託制作盤 (番号なし、昭和 4-10 年制作カ、音源提供：毛利真人氏)

- * 「摘草」 菊原琴治 〈歌・三〉、中尾都山 〈尺〉

ニッポノホン 2540-2542 (大正 7 年 1 月発売)

- * 「春琴抄」 菊原初子 〈歌・三〉、菊庭和子 〈箏〉、高平鐘山 〈尺〉

CBS ソニー SOJZ-83B (『地歌・箏曲 大阪の作曲家—日本の作曲家 I』、昭和 49 年 11 月発売)

○第 3 回「三代目常磐津松尾太夫を聴く」2011.07.07

- * 「戻橋」 6 尾上梅幸 〈小百合〉、7 松本幸四郎 〈綱〉

3 常磐津松尾太夫 〈浄〉、3 常磐津文字兵衛 〈三〉、10 田中伝左衛門社中

ニッポノホン 15080-15083 (大正 12 年 5 月発売)

- * 「将門」 6 尾上梅幸 〈瀧夜叉〉、7 松本幸四郎 〈光圀〉

3 常磐津松尾太夫 〈浄〉、3 常磐津文字兵衛 〈三〉

ニッポノホン 15213 (大正 13 年 1 月発売)

- * 「釣女」 3 常磐津松尾太夫 〈浄〉、3 常磐津文字兵衛、常磐津菊三郎 〈三〉

ニッソー 1230-1233 (大正 13 年 7 月発売)

○第 4 回「長唄の名人達」(会場・京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA) 2011.09.01

- * 「長唄 元禄花見踊」 3 松永和楓、(松永) 和三八 〈唄〉、鉄四郎、常次 〈三〉

米ビクター 11233 (明治 41 年発売)

- * 「長唄 鶴亀 (庭の真砂は) 一」 3 松永和楓、(松永) 和三八 〈唄〉、鉄四郎、常次 〈三〉

米ビクター 11234-A (明治 41 年発売)

- * 「長唄 鶴亀 (月宮殿) 二」 3 松永和楓、(松永) 和三八 〈唄〉、鉄四郎、常次 〈三〉

米ビクター 11235-B (明治 41 年発売)

- * 「長唄 勧進帳元より勧進帳」 6 芳村伊十郎 〈唄〉、13 杵屋六左衛門、杵屋浅吉 〈三〉

英グラモホン 12432 (明治 36 年録音)

- * 「長唄 勧進帳つひにはなかぬ」 6 芳村伊十郎 〈唄〉、13 杵屋六左衛門、杵屋浅吉 〈三〉

英グラモホン 12453 (明治 36 年録音)

- * 「長唄 勧進帳弁慶の舞」 6 芳村伊十郎 〈唄〉、13 杵屋六左衛門、杵屋浅吉 〈三〉

英グラモホン GC12703 (明治 36 年録音)

- * 「長唄 道成寺フウツリリンキ」 6 芳村伊十郎 〈唄〉、13 杵屋六左衛門、杵屋浅吉 〈三〉

英グラモホン 12454 (明治 36 年録音)

- * 「長唄 大薩摩 筑摩川」 6 芳村伊十郎 〈唄〉、13 杵屋六左衛門、杵屋浅吉 〈三〉

英グラモホン 12432 (明治36年録音)

- * 「長唄 三味線斗り相の手尽し」13 杵屋六左衛門、杵屋浅吉 〈三〉

英グラモホン GC18059 (明治36年録音)

(以上英グラモホン盤は『全集 日本吹込み事始』(東芝EMI TOCF-59064)より使用)

- * 「長唄 犬神」6 芳村伊十郎 〈唄〉、3 杵屋栄蔵、杵屋栄二 〈三〉、住田多蔵 〈笛〉
望月朴清 〈小〉、望月長太郎 〈大〉、望月太喜右衛門 〈太〉

ニッポノホン 5709-5713、5716 (大正12年1月発売)

- * 「長唄 京鹿子娘道成寺より」4 松永和風 〈唄〉、杵屋五三郎、杵屋勝丸 〈三〉
望月・梅屋社中、コロムビア 35110 - 35113 (昭和5年11月発売)

- * 「長唄 秋の色種」4 吉住小三郎 〈唄〉、2 稀音家浄観、杵屋六四郎 〈三〉
コロムビア 4532 - 4535 (昭和14年8月発売)

○第5回「名家のレコード」2011.10.06

- * 「千鳥の曲」中尾都山 〈尺〉、菊原大検校 〈歌・箏〉

オリエント 1618-1619 (大正9年1月発売)

- * 「松竹梅 (手事)」米川親敏 〈箏〉、川瀬里子 〈三〉、小曽根蔵太 〈尺〉

アメリカン 2217 (明治42-43年発売カ)

- * 「松竹梅 (二上り)」米川親敏 〈箏〉、川瀬里子 〈三〉、小曽根蔵太 〈尺〉

アメリカン 2215 (明治42-43年発売カ)

- * 「琴、三絃、胡弓 (熊野)」上原真佐喜 〈箏〉、高橋栄清 〈三〉、山室保嘉 〈胡〉
ベカ 2531 (明治40年発売)

- * 「残月」青木鈴暮 〈尺〉、太田敏子 〈三〉、ポリドール 170 (昭和5年発売)

- * 「菊の露」富崎春昇 〈歌・三〉、コッカ 4095 (昭和13-14年制作カ)

- * 「こすのと」富崎春昇 〈歌・三〉、コッカ 4094 (昭和13-14年制作カ)

- * 「箏曲独奏 紅梅」鈴木鼓村 〈歌・箏〉、米ビクター 11136 (明治41年発売)

- * 「千鳥の曲」鈴木鼓村改那智俊宣 〈歌・箏〉、ニッポー 497-498 (大正11年5月発売)

- * 「三国一」四世宗家 山村若、日本放送録音 H173 (昭和29年頃制作カ)

○第6回「箏組歌、段物、砧物のレコード」2011.11.17

- * 「奥組 四季の曲」中橋暁夢 〈歌・箏〉

ダイヤモンド 4216-4217A (昭和13 - 14年制作カ)

- * 「六段の調べ (独奏)」宮城道雄 〈箏〉 (昭和13年4月21日録音)

ビクターエンターテインメント VICG-40116 (『箏曲地歌大系』、平成8年発売)

- * 「箏独奏 六段」宮城道雄 〈箏〉、ビクター 13066 (昭和5年5月発売)

- * 「六段」菊原初子 〈箏〉、菊原琴治大検校 〈三・三下り〉

パーロホン E1696 (昭和6年8月発売カ)

- * 「生田流箏曲 六段」 富崎美喜〈箏〉、富崎春昇〈三〉、佐藤晴美〈尺〉
ポリドール 116 (昭和5年1月発売)
- * 「生田流箏曲 替手六段」 萩原正吟〈箏〉、大橋鴻山〈尺〉
ビクター 50337 (昭和3年発売)
- * 「琴曲 六段」 萩岡松韻〈箏・替手〉、千布豊勢〈箏・本手〉
ニッポノホン 15545 (大正14年発売)
- * 「三曲合奏 十段 (みだれ)」
菊富大勾当、菊艶大勾当〈箏〉、菊信大勾当、菊萬亀大勾当〈三弦〉、藤田雨山〈尺〉
ウオールド 8000 (長時間レコード、大正14・15年発売)
- * 「砧 (生田検校作曲、平野健次・久保田敏子復元)」 須山知行〈箏〉
東芝EMI TH-60081 (「砧もの—日本音楽の魅力を探る— (その2)」、昭和54年発売)

○第7回「箏曲長唄の長時間レコード」2011.12.01

- * 「箏曲長唄 吾妻八景」 美之助〈唄〉、楯城護、榎幸巴城〈箏〉
ニッポノ長時間レコード L64 (昭和2年9月発売)
- * 「江戸小唄 忍ぶ恋路」 立花家美之助〈唄〉、立花家橘之助〈三〉
ニッポノ 1436-A (大正14年2月発売)
- * 「琴曲尺八合奏 越後獅子」
楯城護〈箏替手〉、楯章華城、楯上郁城〈箏本手〉、上田芳憧〈尺〉
リーガル 65107 (昭和8年1月発売)
- * 「琴・尺八合奏 鶴亀」 楯城護〈箏〉、上田芳憧〈尺〉
リーガル 66546-B (昭和9年7-8月発売カ)
- * 「箏曲尺八合奏 黒髪」 上田芳憧〈尺〉、楯城護〈箏〉
ルモンド 3133 (昭和10-13年頃発売カ)
- * 「時鳥の曲」 楯城護〈歌・箏替手〉、楯城町子〈歌・箏本手〉、楯美照城〈歌・箏本手〉
CBS ソニー SOJZ83-A (地歌・箏曲『大阪の作曲家』—日本の作曲家I、昭和49年11月発売)

○第8回「純邦楽レコードの黄金時代」(会場・京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA)
2012.03.08

- * 「迦陵頻一乱声 (古楽乱声)、音取 (迦陵頻音取)、急」、雅亮会
東芝EMI TH-60117 (『四天王寺舞楽 日本音楽の魅力を探る—その3—』、昭和54年10月発売)
- * 「八千代獅子」 菊田歌雄〈歌・三〉、菊橋寿謡〈箏〉、中塩幸祐〈胡〉

CBS ソニー SOJZ 77A (『地歌・箏曲 大阪の作曲家—日本の作曲家 I』、昭和49年11月発売)

* 「秋風の曲より」 萩原正吟 〈歌・箏〉

CBS ソニー SOJZ 102A (『地歌・箏曲 京都の作曲家—日本の作曲家 II』、昭和50年5月発売)

* 「口三味線について～本調子の練習 1」

菊原初子 〈解説〉、菊津木昭 〈三〉、久保田敏子 〈聞き手〉

東芝EMI TH-60064A (『邦楽器演奏教程 三弦・箏編』、昭和53年12月発売)

* 「囃子実例篇 (一)『雁のたより』より」 十三代片岡仁左衛門 〈口演〉

ビクター音楽産業 SJL 104-A (『上方下座音楽集成』、1975年11月発売)

* 「壇浦兜軍記 阿古屋琴責の段より」

8 竹本綱大夫・4 竹本越路大夫 〈浄瑠璃〉、2 野沢喜左衛門・10 竹沢弥七 〈三味線〉

キング K30G-9033 (『八世竹本綱大夫大全集』、1981年2月発売)

* 「地歌 笑顔」 富崎春昇 〈歌・三〉

日本コロムビア CLS-5159-A (『富崎春昇地唄集』、1974年1月発売)

ご覧の通り平成23年度の内容は、全8回の内の約5回が地歌・箏曲という非常に片寄ったものとなった。それはこの年度をもって久保田所長が退職されるため、ご在職中にできるだけ多くのお話しを伺いたいという思いから、大西が先生にご無理をお願いしたことによる。いずれの回も案内役の予想を越えた、詳細極まる解説を頂戴した。ご多忙にも関わらず、毎回解説役をご快諾下さった久保田先生に改めて御礼申し上げる次第である。

◇関連する口頭発表

* 2011.08.11 大西秀紀「歌舞伎SPレコードの発売状況について」、見玉竜一、内山美樹子、大西秀紀、飯島満『日本演劇に関する映像・音声資料』、国際演劇学会、大阪大学 (大阪)

* 2012.01.29 大西秀紀「ニッソー長時間レコードの上方落語」、大阪芸能懇話会、難波生涯学習センター

◇関連する講座

* 2012.02.26 久保田敏子、大西秀紀「日本の希少音楽資源にふれる」、京あるき

in 東京 2012 大学講座紹介、京都造形芸術大学外苑キャンパス (東京都)

◇関連する展示

* 2010.07.01-2011.07.28 「SPレコードレーベルに見る 日蓄—日本コロムビアの歴史」、京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター

* 2011.08.30-2011.09.04 「SPレコードレーベルに見る 日蓄—日本コロムビアの歴史」、京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA

◇関連する新聞報道

* 2011.09.01 「歴史を切り取った SP レコードレーベルなど展示」京都新聞朝刊、
<http://www.kyoto-np.co.jp/kyoto/article/20110901000049>

◇関連する執筆

* 2011.06 「義太夫 SP レコードの書誌的調査」『京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所報』、第 12 号、京都市立芸術大学、pp.8-12

「舞楽（雅楽）における旋律様式変遷に関する研究」

田鍬智志

前年度に引き続き、静岡県周智郡森町の小國神社・天宮神社に伝わる十二段舞楽レパートリーの笛旋律がどのような性格のものであるか考察を行った。当地の舞楽の笛は、宮内庁楽部等が伝承する雅楽の笛旋律とは著しく印象の異なるが、箏譜や笙譜の譜字列がなす隠された旋律に近似することを、昨年度すでに報告した。今年度は、全伝承曲について、平安末期、藤原師長の箏譜『仁智要録』所収各曲譜の譜字列との対応関係を明らかにし、本センター紀要上で報告した。

こんにち伝わっている十二段舞楽の笛旋律はたしかに「民俗化」したものといえてよい。大半の曲は、(中央の当該曲と)音列的に一部分のみの同定にとどまるものであり、また同定不可能な曲もある。また全般的にいて拍節の周期性が不明瞭である。しかし、〈タンナン(色香の急・鳥の舞の急)〉〈チューラリ(蝶の舞の急)〉〈抜頭〉〈新まく〉〈なっそりの序〉〈太平楽序〉の 6 曲の笛旋律様式については、断片的ではあるが、箏(仁智要録)所収当該曲譜の譜字列が示す「基本旋律」に類似していることが明らかとなった。

十二段舞楽のはじまりについては、小國社が遠州一宮としての役割を担うようになった 11 世紀後半以降である可能性がすでに指摘されている。それを裏付けるように、天福元年(1233)の『教訓抄』に、すでに舞の伝が絶えたとある《菩薩》の舞が、当地には緩急の舞章を具えたかたちで伝承されており、また当地には藤原頼長の娘(すなわち藤原師長とは兄妹)という女性をはじめとして、複数の公家出身者が暮らしたという言い伝えが残っている。こんにち伝わる笛旋律が、箏譜の音進行と類似する点でも、やはり平安末期という時代が、創始された時期としては最も有力である、という見解を述べた。

一方で、〈なっそりの急〉〈太平楽の急〉のように、中央の現行雅楽の横笛旋律に近似する例もある。それは、平安末期より後の時代に中央雅楽の旋律をとり入れた痕跡と考えられ、異なる時代の笛旋律が重層的に蓄積されていることを明らかにした。

*

もう一つの研究の柱として、昨年度より、平安末期・鎌倉期頃の高楽譜解釈による再現演奏を行っている。昨年度は、おもに藤原師長撰の箏譜『仁智要録』の解釈演奏を行

ったが、今年度は、琵琶譜『三五要録』、笙譜『古譜呂律卷』、笛譜『管眼集』をはじめ各楽器の古譜に対象を広げ、でんおん連続講座受講生・本学学生から有志者を募って、アンサンブルを実現した。10月10日、同15日には、『源氏物語』に描かれる曲より、〈青海波〉〈納蘇利〉〈胡蝶〉を、本学学生と教職員有志によって演奏する機会を得た。

また、でんおん連続講座受講生希望者を募って管絃講を結成し、3月10日に京都市内にて「順次往生講式」の再現を試みた。「順次往生講式」とは、平安末期から鎌倉期に盛んに行われた、声楽（声歌）つき雅楽を盛り込んだ雅楽中心の講式である。それは妙法蓮華経方便品などが説くところの、管絃歌舞の実践が功德になるという教えにもとづき、既成の雅楽曲に阿弥陀の徳を讃じる歌詞をのせて歌い、西方極楽往生を願う講式である。今回は、知恩院蔵の式次第書と、称名寺金澤文庫の『楽邦歌詠』等の声歌譜（神奈川県立金沢文庫寄託）にもとづき、一部を省略し、また構成を変えて再現した。同様の試みは、すでに平成5年に、片岡義道氏・芝祐靖氏らによって国立劇場で行われたが、それは現行の雅楽の演奏にのるよう金澤文庫の声歌譜を解釈した演奏であるから、私どもが再現した音楽は、両氏らの再現した音楽とはまったく趣を異にするものである。

ピッケン学派の雅楽研究は、日本国内において、一部の雅楽研究者には享受されているとはいえ、半世紀以上の歳月が経過してもなお、一般にはほとんど知られていない。その理由として、こんにちとは全く違う雅楽の調べというのが想像し難い点、彼らの論説にもとづく古楽譜再現演奏の試みがほとんどなされてこなかったことがあげられる。中古の雅楽は、現在の雅楽を基準にすると時間的に相当凝縮している音楽だとする彼らの説に対して、演奏不可能だという意見もしばしば耳にする。今年度一年間で、年齢や所属をこえた学内外の多くの方々、平安末期古楽譜の再現演奏に果敢に挑み、アンサンブルが成立するまでに上達された。それは、決して演奏不可能ではないことが実証されたに他ならない。演奏に挑戦いただいた皆様の並々ならぬ熱意と努力に篤く御礼申し上げる次第である。

◇おもな活動

- * 2011.10.10 レクチャーおよびコンサート「源氏物語の音楽—平安時代の雅楽はこんな曲！？—」の企画・解説・演奏、於宇治市源氏物語ミュージアム講座室、出演：京都市立芸術大学雅楽研究会。
- * 2011.10.15 日本伝統音楽特別講座「平安時代の雅楽はこんな曲！？—源氏物語の音楽から—」の企画・解説・演奏、於日本伝統音楽研究センター合同研究

室1、司会：藤田隆則（本センター准教授）、出演：京都市立芸術大学雅楽研究会。

- * 2011.11.18-12.16 でんおん連続講座F「古代中世の雅楽—古代中世の雅楽—古楽譜から読み解く古代大陸の歌謡的旋律—」全5回、日本伝統音楽研究センター。
- * 2012.03.10 レクチャーおよび東日本大震災物故者追善のための講式「管絃往生をめざした人々—平安末期の"極楽

声歌"付き雅楽の世界」の企画・解説・演奏、於東北寺誠心院（京都新京極通）、出仕：管絃講（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター古代中世雅楽研究会）・遠州一宮小國神社古式舞楽保存会有志・一般来場者。

* 2012.03 研究ノート「中央の舞楽と地方の舞楽の旋律様式—箏譜にみる基本旋律と遠州森町十二段舞楽の笛旋律—」、日本伝統音楽センター編『日本伝統音楽研究』9：57-73。

* 天神祭御迎船人形の調査、大阪府伝統文化保護団体連絡会実施「天神祭の御迎船人形の調査研究事業」。

* 江州音頭 SP レコードの調査、東近江市伝統文化研究会実施「文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業／記録作成調査研究事業」

* 吐山太鼓踊り・十津川盆踊り等の現地調査、奈良県教育委員会文化財保護課実施「奈良県民俗芸能緊急調査」。

「楽人記録の研究—『豊原信秋記』を中心として—」

三島暁子

従来の研究史において、南北朝・室町時代の雅楽は、前時代までの庇護者である公家の弱体化に伴い、衰退期と位置づけられてきた。すなわち、時代の担い手が公家から武家へと転換するのに伴い、朝儀と深く関わってきた雅楽は衰退・形骸化し、代わって猿楽・能といった新興の芸能が武家の庇護を得て隆盛すると説明されてきたのである。しかし、近世の新たな三方楽所制度に至る上でも、さらに、雅楽が現代まで継承されてきた理由（又は継承されてきたと解釈する）を考える上でも、楽家の活動が見えにくいこの時代の研究こそ、日本音楽史上の重要な鍵といえるだろう。

平成23年の本年は、3大楽書のひとつとして名高い『體源鈔』（永正8年：1511）が編纂されて、500年の節目にあたる。しかしながら、500年という歳月が流れてもなお、『體源鈔』について、あるいは編纂者の豊原統秋（むねあき）について、判っていることは限られるのが現状である。こうした状況を打破するためにも、南北朝から室町時代にかけての楽家豊原氏の活動（楽人の実態・奏楽の場）を明らかにすることが、楽人の具体像解明と、『體源鈔』研究の大前提として突破口になると考える。『體源鈔』跋文には、家風零落の危機感から子孫のために記すとあるので、当該期の雅楽衰退の状況を示すものとして捉えられてきたわけだが、こうした修辭は楽書一般に見られるものである。二十帖という大著を著すことができたこの頃の豊原家の活動の意義を積極的に評価すべきであり、そのためにも『體源鈔』成立に至るまでの楽家の動向を明らかにする必要があるといえる。そこでまず注目したいのが、統秋の祖先である豊原信秋による南北朝期の日次記録である。

応安7年（1374）の〔豊原信秋記〕は、近世以前に記された唯一の地下楽人日次記録

として極めて貴重な史料である。日本古典全集『統教訓抄』に収録され、早くから活字化されながら、これを本格的に分析した研究はなく、その史料価値は十分活かされていない。本年はその基礎研究として、まず諸本調査を行った。

伝存するのは写本（曼殊院蔵、京都大学附属図書館蔵など）のみで、特に重要文化財に指定されている曼殊院所蔵の楽書『教訓鈔及統教訓抄』の紙背に記された一本は、信秋子孫の豊原量秋が書写したことが明らかな点から重要である。加えて、諸本のうち、他本はいずれ応安7年の正月より8月までの記事であるが、曼殊院蔵『教訓鈔及統教訓抄』の紙背の一本のみが、正月より12月までの記事を取める。このように、曼殊院蔵本が最重要史料であることは明らかなのだが、しかしながら、当該史料は厚い裏打紙によって紙背の〔豊原信秋記〕部分は極めて判読が困難である旨の情報を得た。原本調査が望ましいことはいうまでもないが、こうした状況により、曼殊院蔵本のは『大日本史料』に収録のものをを用いることとした。

日本古典全集本に翻刻されたのは『統教訓抄』に混入されたためであるように、〔豊原信秋記〕は主に『統教訓抄』に付随する物として伝わってきたといえる。だが、日記であるという内容から、単独の史料として書写され伝えられたケースもあり、京都大学付属図書館蔵の平松文庫「応安七年記」がそれである。平松家は宮廷外記の家系にあり、朝廷の儀式典拠を中心とした記録文書が代々蓄積されて形成されたものが平松文庫である。現在の同文庫の中に楽書に関する史料は他に認められず、「応安七年記」（〔豊原信秋記〕）は記録類（一例を挙げれば、応永12年の「北山行幸記」）として認識されていたと考えられる。諸本調査は今後も継続するものであるが、次の段階として、他の古記録・史料などの関連づけながら内容の分析に移りたい。

また、諸本調査の過程では、〔豊原信秋記〕を書写した豊原量秋という人物の重要性も浮かびあがってきた。京都国立博物館所蔵の『教訓鈔』（『教訓鈔』の現存最古写本）もやはり量秋の手による写しである。すなわち、『教訓鈔』『統教訓抄』といった『體源鈔』の著述の典拠史料、すなわち室町時代の豊原家嫡流の楽書類の多くは、量秋の書写活動によって豊原統秋まで伝えられたものと考えられるのである。楽家における記録の継承・蓄積の具体像として、豊原量秋という人物の活動を明らかにしてゆく必要があるだろう。

担当のでおん連続講座G「絵画資料と文献からさぐる『詩歌管絃』再考－聴こえない音から何が読みとれるのか－」（全6回）では、南北朝・室町時代の文化史としての雅楽について取り上げ、時代に即した雅楽受容の模様について、天皇家の雅楽の場・將軍家の雅楽の場から具体的に考えた。受講者の方々には毎回、疑問点や感想などのコメントの提出にご協力頂いた。それらは、質疑の時間では十分に回答できなかった部分を次の時間で補うのに有効であったばかりでなく、予期せぬ感想やとらえ方など記していただく事も多く、非常に有り難かった。受講者の方々と共に作る時間をより実りある

ものとするため、次の機会にもお願いしたいと考えている。

また、オープンスクール・でんおん連続講座の関連展示を、7階の展示スペースで行った。展示に際しては、当センター所蔵の資料に加え、芸術資料館収蔵資料からも出陳を願い、日本音楽史の様々な資料に触れることが出来るように努めた。芸術資料館のご理解とご協力、また、当センター資料室学芸員の齊藤尚氏のご協力に感謝したい。

◇講義・講座等

- * 2011.08.07 美術学部オープンキャンパス「講義体験2」における模擬授業「極楽浄土の響き」(2回)
- * 2011.08.07-30 美術学部オープンキャンパス「講義体験2」関連展示(伝統音楽センター7F)「図像から音がたちあがる-伝統音楽の世界から-」、担当:藤田隆則、三島暁子
- * 2011.02.01・08・15(全6回) 市民講座「でんおん連続講座:G 絵画資料と文献からさぐる『詩歌管絃』再考-聴こえない音から何が読みとれるのか-」

- * 2011.02.01-29 市民講座「でんおん連続講座G」関連展示「舞楽を描くー(日本伝統音楽研究センター新収蔵資料)望月玉川旧蔵「舞楽図」を中心としてー(第一期)」(伝統音楽センター7F)担当:三島暁子、齊藤尚

◇史料調査

- * 2011.07.01・08 京都大学附属図書館蔵『豊原信秋記』調査(京都大学附属図書館)
- * 2011.07.14 国立歴史民俗博物館蔵六条八幡文書調査(国立歴史民俗博物館)
- * 2011.11.16 京都国立博物館蔵『教訓抄』調査(京都国立博物館)

平成23年度第1回(通算第31回)公開講座

長唄の美と魅力—表現を生み出す力—

企画・構成・司会：竹内有一

日時：平成23年(2011)9月4日(日)午後3時～5時

会場：京都市立京都堀川音楽高等学校 音楽ホール

入場料：1,000円、定員：300名、後援：第26回国民文化祭京都府実行委員会

演奏と芸談：〈唄〉杵屋東成・今藤政貴・今藤政之祐

〈三味線〉今藤政太郎・今藤美治郎・杵屋禄山

〈囃子〉藤舎呂悦・藤舎貴生・藤舎悦芳・望月隆一郎・望月太八一郎

解説・聞き手：竹内有一、配川美加(東京芸術大学非常勤講師)

内容：(1) 名曲を聴く1 「越後獅子」

(2) トーク 「今藤政太郎師に訊く—伝承力と表現力—」

(3) 名曲を聴く2 「勧進帳」

趣旨(チラシより)：長唄は、江戸と上方とを往来しながら江戸歌舞伎とともに発達し、江戸後期から戦前にかけて、日本人にもっとも親しまれた音楽の一つです。その芸と



美がどのように受け継がれてきたのか、そして引き継がれていくのか、長唄三味線方の今藤政太郎師をお迎えして考察します。古典長唄の演奏家としての枠に留まらず、洋楽ホールの音響を生かした企画や、数々の新作の作曲でも知られ、京都・関西とも由縁の深い今藤師によるトークと、日本を代表する演奏家陣による名曲のひとつをお楽しみください。

報告：第一線で活躍される長唄演奏家による名曲の演奏をじっくりと聴き、作品と演奏の魅力を広く知ってもらうことを第一の目的とした。また、演奏者から数々の芸談を聞き出しながら、長唄ならではの魅力を生み出している演奏者たちの技術や感性がどのように作られてきたのかを考察することを第二の目的とした。また、長唄の歴史、今藤流の歴史と特色等をまとめたパンフレットを作成し配布した。

平成 23 年度第 2 回（通算第 32 回）公開講座

義太夫節 稀曲の復活

企画・構成・司会：山田智恵子

日時：平成 23 年（2011）12 月 19 日（月） 午後 2 時～4 時 30 分

会場：京都府立文化芸術会館（上京区河原町通広小路下ル）

入場料：1,000 円（資料代）、定員：450 名

共催：京都府・財団法人京都文化財団文化芸術会館「ぶんげい体験講座」

後援：第 26 回国民文化祭京都府実行委員会 主催：京都市立芸術大学

内容：(1) 講演 1「文楽における義太夫節の伝承と稀曲」後藤静夫（本学教授）

(2) 講演 2「『播州皿屋舗』の成立と上演史」神津武男（早稲田大学高等研究所 招聘研究員）

(3) 対談「青山館の音楽的特徴と伝承および復活の方法」豊竹嶋大夫（人形浄瑠璃文楽座大夫）・竹澤團七（人形浄瑠璃文楽座三味線）聞き手：山田智恵子（本学教授）

(4) 演奏「播州皿屋舗 青山館の段」浄瑠璃：豊竹嶋大夫 三味線：竹澤團七

趣旨：かつては多くの日本人に親しまれた義太夫節ですが、現在上演が途絶えている曲が少なくありません。この公開講座では、そうした稀曲のなかから、昭和初期から上演が途絶えて久しい『播州皿屋舗 青山館の段』を、現在唯一伝承している豊竹嶋大夫師と竹澤團七師により、一部補曲のうえ全曲復活演奏していただくことを試みました。伝承の系譜や復活にさいしてのご苦心など、両師のお話を交えて、伝承を途切れさせることなく継承していくことの意義について考えたいと思います。

報告：人形浄瑠璃文楽の音楽である義太夫節は、かつて多くの人々に親しまれた音楽芸能であった。しかし、最近では浄瑠璃（義太夫節の語り）のお稽古をする人も少なくなり、馴染みが薄くなってきている。文楽の世界でも、昭和初期以降、観客数の減少

にとまう上演形式の変化などにより、上演されなくなった作品が少なくない。一度上演伝承が途絶えると、復活するのはかなり困難である。幸い、30数年前に一度復曲、ラジオ放送された曲がいくつかある。その30数年前の演奏も、その時一度限りでは伝承が途絶えてしまう可能性もある。

今回は、その時復曲された作品のなかから、豊竹嶋大夫師・竹澤團七師により、『播州皿屋舗 青山館の段』を一部補曲の上もう一度舞台にかけていただき、伝承を繋げていこうとする試みであった。ラジオ放送時には放送時間の関係でカットされた部分があったが、今回三味線の竹澤團七師に補曲していただき、「青山館」一段すべてを上演した。お菊の幽霊が家宝の皿を「一枚、二枚」と数える場面が有名な皿屋敷物の原点である浄瑠璃「青山館」が、昭和7年9月以来約80年ぶりに舞台上演されたことになる。

その復活演奏に先立ち、後藤静夫氏には、義太夫節の伝承のありかたについての講演を、神津武男氏には、『播州皿屋舗』の成立と上演系譜および詞章の翻刻についての講演をお願いした。さらに、豊竹嶋大夫師と竹澤團七師には、「青山館」の音楽的特徴と復活の方法などをお話いただいた。年末平日の午後という時間帯、素浄瑠璃の稀曲という企画にもかかわらず、東京からの参加者もあり、約200名が参加した。神津氏の的確かつわかりやすい解説により、「青山館」の複雑な成立過程についての理解も得られた。対談における実演者両師の率直なお話と、なにもまして、「青山館」の熱演により、義太夫節にあまり馴染みのない参加者にも、その面白さが充分伝わったように感じた。企画者にとっても、全曲復活により初めてこの曲の実態が理解でき、義太夫節の多様さを改めて再認識する機会となった。



平成 23 年度第 3 回（通算第 33 回）公開講座
山田検校の魅力を探る—その着眼点と既成曲の撮取—
〈久保田敏子所長退任記念〉

企画・構成・司会：久保田敏子

日時：平成 24 年 3 月 3 日（土曜日） 午後 2 時～4 時

会場：京都市立京都堀川音楽高等学校 音楽ホール 入場料：1,000 円

内容：(1) 講演：久保田敏子「山田検校と山田流箏曲の特色について」

(2) 実演付き講演：萩岡松韻（東京芸術大学音楽学部邦楽科教授・山田流箏曲萩岡派四世宗家）「山田検校の作品について—既成曲の撮取と旋律型の巧みな使い回し—」

(3) 鑑賞《ほととぎす》 (4) 分析と鑑賞《小督の曲》

演奏：萩岡松韻（十寸見東信）、萩岡未貴（山彦みき、杵屋五涼）、萩岡信乃

趣旨：山田流箏曲は関西圏では聴く機会が極めて少ないですが、山田検校一代で生田流と並ぶ一大流派に成長した箏曲です。その魅力は、箏で物語を聴かせる「箏浄瑠璃」とも言える「語り物」的性格にあります。この講座では《小督の曲》を中心に、山田検校が撮取し、さりげなく活用した既成の邦楽を、実際の演奏も踏まえながら解き明かし、その作品の魅力を探ってみます。特に、地歌箏曲と河東節や長唄等の演奏を併せて聴くことは希有な機会といえます。



(第33回公開講座関連企画)

寄贈古楽器の展示と実演

企画：久保田敏子

◇展示（センター所蔵主要楽器の展示）

日時：平成24年（2012）3月3日（土）・4日（日）午前11時～午後7時

会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA（アクア） 入場料：無料

協力：邦楽普及団体「えん」、アサノ楽器

展示品：〈飾箏〉(1) 頼正夫氏寄贈、(2) 伊藤八重子氏寄贈、(3) その他、(4) 箏付属品（爪各種・箏柱各種・油単等）

〈三味線〉(1) 柳川（立木幸枝氏寄贈）、(2) 地歌＝九州型移行期（福森文子氏寄贈）、(3) 丸折細棹（中島勝祐氏寄贈）、(4) 太棹、(5) 付属品（撥・駒各種）

◇実演

日時：平成24年（2012）3月4日（日）午後1時30分～午後2時30分

会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA（アクア） 入場料：無料

演奏者：池上眞吾・伊藤志野・伊藤和子・岡田道明・寺澤雅楽信・西川かをり・早田雅楽珂

演奏曲目と使用楽器：

《花見船》1921年宮城道雄作曲（十七弦開発後初使用の曲）

使用楽器：Ⅰ箏、Ⅱ箏、大十七弦（稀少品）、宮城胡弓、玲琴（稀少品）、尺八

《瀬音》1923年宮城道雄作曲（十七弦が効果を發揮して評判を取った成功作）

使用楽器：箏、十七弦

《高砂》戸川勾当作曲の謡物（1784年の唄本に歌詞初出。謡曲《高砂》後段ワキの待謡借用） 使用楽器：箏、柳川三味線

《千鳥の曲》2代吉沢検校作曲（1855年自作の胡弓曲より移曲）

使用楽器：箏本手、箏替手

《宝慶寺》池上眞吾作曲（独奏現代曲）

使用楽器：箏

でんおん連続講座

平成 23 (2011) 年度

平成 23 年度 でんおん連続講座 A

能を解剖する一謡の朗読、手付・形付の読解を通じて一

講師：藤田隆則

- 4 月 20 日 当麻 (その 1) 謡は文句が主役である
- 27 日 当麻 (その 2) 人物は囃されて登場する
- 5 月 11 日 当麻 (その 3) 人物は名のる
- 18 日 海士 (その 1) 「吟誦」「朗誦」「詠唱」
- 25 日 海士 (その 2) 「拍子不合」から「拍子合」
- 6 月 1 日 海士 (その 3) 物語から仕方話
- 8 日 誓願寺 (その 1) シテの「歩行」と「仕舞」
- 15 日 誓願寺 (その 2) シテは方角と景物を指し示す
- 22 日 誓願寺 (その 3) シテが働く・シテが舞う
- 29 日 呉服 (その 2) 物語の結末と祝言

全 10 回、10 時 40 分～12 時 10 分、会場：合同研究室 1、受講料：5000 円

趣旨：室町時代に成立した能は、現在でもよく演じられていますが、2 時間にもおよぶ、力のこもった演技を、より面白く受けとめるためには、謡のテキスト、音楽構造、演出上のポイントを熟知していなければなりません。能の鑑賞歴・稽古歴は長くてもわかった気がしないと感じておられる方、日本を代表する文化の 1 つを深く学びたいと思われる方、ぜひ受講してください。今期は「当麻」「海士」「誓願寺」など天女舞の作品を取り上げます。

平成 23 年度 でんおん連続講座 B

義太夫節の音楽としてのしくみを理解する一文楽をより深く理解するために

講師：山田智恵子

- 4 月 20 日 義太夫節の音楽としてのしくみ (1) 地合とは何か
- 27 日 義太夫節の音楽としてのしくみ (2) 一曲の構成
- 5 月 11 日 「義経千本桜二段目切 渡海屋の段」その 1
- 18 日 「渡海屋の段」その 2
- 25 日 「渡海屋の段」その 3

6月1日 「義経千本桜三段目切鮎屋の段」その1

8日 「鮎屋の段」その2

15日 「鮎屋の段」その3

22日 「鮎屋の段」その4

29日 「義経千本桜 道行初音旅」

全10回、13時～14時30分、会場：合同研究室1、受講料5000円

趣旨：人形浄瑠璃文楽の音楽である義太夫節は、近年までは多くの人々にとって身近な音楽でした。しかし最近ではお稽古する人も少なくなり、馴染みが薄くなっているといっても過言ではありません。この講座では、音楽としての義太夫節にスポットをあて、全員でテキストを音読したあと、実際の演奏を聴いていきます。一つ一つの言葉(詞章)がいかに巧みに音の世界で表現されているが知っていただき、文楽を目だけでなく耳からも楽しめるようになることを目指したいと思います。

平成23年度 でんおん連続講座C

丸本で読む義太夫節—義経千本桜・三段目すし屋—

講師：後藤静夫

10月7日 文楽と義太夫節

14日 義太夫節の構造と丸本

21日 「義経千本桜」とは

28日 丸本を読む 1

11月4日 丸本を読む 2

11日 丸本を読む 3

18日 丸本を読む 4

25日 丸本を読む 5

12月2日 DVD「すし屋の段」を見る

9日 まとめ

全10回、13時～14時30分、会場：合同研究室1、受講料5000円

趣旨：人形浄瑠璃文楽で演奏される「義太夫節」は、劇場音楽としてすばらしい表現力を発揮し、現代の鑑賞者を感動させてくれます。その感動は、台本である浄瑠璃作品が優れている事が前提になっています。

「義太夫節」の台本は「丸本」と呼ばれ、読み物としても広く流通・享受されてきました。木版刷りの丸本は一見難しそうですが、少し慣れれば案外と読みやすいものです。スケールの大きな、しっかりとしたストーリーが、独特で洗練された文体で表された作品は、読み進んでいくと引き込まれ、次の展開を知りたくなくなっていく楽しみが味わえると思います。

文楽や義太夫節の概略や構造を学んだ上で、10年度前期の「菅原伝授手習鑑・三段目桜丸切腹の段」に続き、平家の公達・惟盛を助けるため、思いがけぬ悲劇に巻き込まれる親子の苦悩を描く「義経千本桜・三段目すし屋の段」を原文で読んでみましょう。活字翻刻を参照しながら、変体仮名の読み方も学んでみましょう。

平成 23 年度 でんおん連続講座 D

「かっぱれ」の謎を解き、踊る

講師：竹内有一

- 9 月 20 日午前 「かっぱれ」への視座—民謡・歌舞伎・ジャズ・森繁久弥ほか—
午後 ルーツを検証する—紀州民謡・鳥羽節ほか—
- 9 月 27 日午前 梅坊主「元祖カツボレ」—暢気社会を驚かせてやろう—
午後 陸軍編曲の影響と波紋—吉川説を洗い直す—
- 10 月 4 日午前 近現代の寄席芸への展開
午後 さあ、みんなで踊ってみましょう！（ゲスト講師：林家染雀）

全 6 回、10 時 40 分～12 時 10 分および 13 時～14 時 30 分

会場：合同研究室 1、受講料：3000 円

趣旨：幕末から近現代の芸能史・音楽史や録音資料において、しばしばその名が登場する「かっぱれ」。なぜ、陽気で愉快な芸能とされるのか、なぜ、たくさんのジャンル・メディアを横断したのか、なぜ、東郷元帥の国葬中継で放送されてしまったのか…。数々の謎を解き明かす作業を通じて、西洋化・近代化と伝統的・古典的なものとの対峙という図式に収めてしまうことのできない、近現代の音楽文化の特色と本質を捉え直してみましょう。最終日にゲストを招いて、かっぱれの身体表現を体感します。



平成23年度 でんおん連続講座E

浄瑠璃の「語り」（常磐津節）を体験する

講師：竹内有一（常磐津若音太夫、常磐津協会正会員）

10月7日 常磐津節の歴史と特色—歌舞伎と浄瑠璃—

14日 「うつぼ猿」予習—狂言から歌舞伎・浄瑠璃へ—

21日 「うつぼ猿」語りのワークショップ 1

28日 「うつぼ猿」語りのワークショップ 2

11月4日 「うつぼ猿」語りのワークショップ 3

11日 「うつぼ猿」語りのワークショップ 4（ゲスト講師：常磐津都史）

全6回、10時40分～12時10分、会場：合同研究室1、受講料：3000円

趣旨：浄瑠璃というと、難しい、わからない、と思われがちですが、江戸時代の庶民と同じように、台本（浄瑠璃正本）を声に出して試行錯誤してみると、その面白さが体験できます。京都生まれの常磐津文字太夫が延享4（1747）年に創流した、江戸の歌舞伎浄瑠璃（常磐津節）の名作を通じて、歌舞伎とその浄瑠璃に実践的に親しんでみましょう。江戸時代の稽古本（変体仮名の版本）をテキストに用い、最終回に招くゲスト（常磐津節三味線方）とともに、一つの作品として仕上げることを目標とします。

平成23年度 でんおん連続講座F

古代中世の雅楽—古楽譜から読み解く古代大陸の歌謡的旋律—

講師：田鍬智志

11月18日 こんにちはの雅楽

25日 古代中世の物語などに描かれた箏・琵琶の演奏場面

12月2日 箏・琵琶などの"伴奏"に秘められた古代大陸の歌謡的旋律

9日 古代中世の楽譜を解説して演奏してみる～唐楽篇

16日 古代中世の楽譜を解説して演奏してみる～高麗楽篇

全5回、10時40分～12時10分、会場：合同研究室1、受講料：3000円

趣旨：こんにちはの雅楽では、旋律楽器の箏・横笛に対して、笙・箏・琵琶は伴奏楽器といえます。ところが、古代中世の文学・記録に目をやると、箏や琵琶を単独で弾く場面が随所にみられます。"伴奏のみ"を鑑賞する慣習などあったのか？国内外の研究によると、当時の雅楽は1曲あたり演奏時間が現在よりもはるかに短く、全楽器が旋律を奏していたといえます。現在の雅楽とはまったく趣の異なる古代中世の雅楽、それはどのような調べであったのかを講義を通じて検証します。

でんおん連続講座 G

絵画資料と文献からさぐる『詩歌管絃』再考—聴こえない音から何が読みとれるのか—

講師：三島暁子

- 2月1日 ①さまざまな雅楽の史料 ②「詩歌管絃」という文化
 8日 テーマ〈天皇家と雅楽〉
 ③順徳天皇と『中殿御会絵巻』 ④三千院御懺法講をさかのぼれば
 15日 テーマ〈将軍家と雅楽〉
 ⑤笙を奏した足利尊氏 ⑥舞楽「青海波」をめぐる
 (進行の都合上、当初予定の⑥「舞楽「青海波」をめぐる」には触れず、2月15日は2講時にわたり⑤「笙を奏した足利尊氏」とした。)

全6回、10時40分～12時10分および13時～14時30分

会場：合同研究室1、受講料：3000円

趣旨：雅楽は都（みやこ）を象徴する貴族文化の一つとして、「詩歌管絃」の語はあまりにも有名です。「詩歌管絃」といえば『紫式部日記絵詞』の一場面—時の権力者藤原道長が寝殿造りの釣殿に佇み、池に浮かべた管絃の船（龍頭鷓首：りゅうとうげきしゅ）を眺める様を描く—を思い浮かべる方も多いことでしょう。では、「詩歌管絃」とはどのような営みであったのでしょうか。あらためて「詩歌管絃」に注目し、よく知られた絵画史料や、雅楽の歴史を知るうえで重要な文献を使いながら、聴こえない音からどんなことが読みとれるのかを考えます。「管絃」＝「管弦」ではない点、天皇以下の貴人が楽器を奏した意味など、文化史における雅楽の役割について取り上げる講座です。

伝音セミナー
日本の希少音楽資源にふれる—SP 盤にきく幻の音
平成23(2011)年度

日 時：2011年5月～2012年3月の全8回（原則として第1木曜日）

午後2時30分～4時30分

会 場：日本伝統音楽研究センター合同研究室1（第1～3、5～7回）

堀川御池ギャラリー @KCUA（アクア）（第4・8回）

参加費：無料、定員50名

第1回 2011年5月12日（木） 企画展示『SPレコードレーベルに見る 日蓄—日本コロムビアの歴史』を聴く

講師：大西秀紀

日本のレコード会社で最も長い歴史を誇る日本コロムビアは、平成22年に創立100周年を迎えました。当センターも、それに伴いSPレコードの時代をたどる展示を催しましたが、23年度最初のセミナーでは、それらの展示品の音に耳を傾けながら、あらためて日蓄-コロムビアの歴史を振り返ります。（広報資料より。以下同じ）

第2回 2011年6月2日（木） 菊原琴治を聴く

講師：久保田敏子、大西秀紀

菊原琴治は大正・昭和前期の大阪地歌箏曲界を支えた演奏家です。その存在の大きさは、昭和の文豪、谷崎潤一郎の創作に大きな影響を与えたことでも知られています。第2回はその三味線組唄、箏組唄の大変珍しいレコードをお聴きいただき、佳き時代の大阪へ御案内いたします。

第3回 2011年7月7日（木） 三代目常磐津松尾太夫を聴く

講師：竹内有一、大西秀紀

三代目常磐津松尾太夫は、明治・大正・昭和を通じ、数多くの録音を残しました。第3回はそれらの中から帝劇時代の七代目松本幸四郎、六代目尾上梅幸のコンビとともに残した歌舞伎舞踊曲を中心に、その名演をお聴きいただきます。

第4回 2011年9月1日（木） 長唄の名人達

講師：大西秀紀

およそ半世紀にわたる日本の SP レコードの歴史において、長唄は数多い三味線音楽のレコード中でも、常に安定した支持を得ていたといえます。同時に名人達も多くの録音を残しました。第4回は六代目芳村伊十郎や四代目吉住小三郎らの演奏を中心に、その個性の違いをお楽しみいただきます。

第5回 2011年10月6日(木) 名家のレコード

講師：久保田敏子、大西秀紀

菊原琴治、富崎春昇、米川親敏、初代上原真佐喜、鈴木鼓村といった、現在から二世代ほど遡った時代に活躍した人達の演奏をお聴きいただきます。

第6回 2011年11月17日(木) 箏組歌、段物、砧物のレコード

講師：久保田敏子、大西秀紀

菊原琴治の三味線組歌のレコードが作られたのとはほぼ同じ時期に、中橋暁夢も古曲保存の重要性を唱え箏組歌のレコード化を実現しました。今回はそれらの珍しいレコードに加え、段物、砧物の演奏を宮城道雄、菊原初子、萩原正吟らのレコードを併せてご紹介いたします。

第7回 2011年12月1日(木) 箏曲長唄の長時間レコード

講師：久保田敏子、大西秀紀

箏曲長唄とは耳慣れぬ名称ですが、長唄の楽曲を箏伴奏にアレンジしたもので、楯城護(1904-1980)がニッソー長時間レコードに「越後獅子」「吾妻八景」の2枚を残しています。一般に SP レコード一面の録音時間は3～5分ですが、大正の終わりから昭和にかけて発売されたこの長時間レコードは、片面12分の録音を実現しました。再生に特殊な装置が必要なため、これまで簡単に聴くことができませんでしたが、今回のセミナーのために新たにデジタル化いたしました。果たして箏曲長唄とはどのようなものでしょうか。

第8回 2012年3月8日(木) 純邦楽レコードの黄金時代

講師：久保田敏子、大西秀紀

現在大きな CD ショップでも、純邦楽のコーナーの品揃えは決して豊富ではありません。しかし昭和40-50年代にレコード各社が競うようにして、数多くの純邦楽レコードを制作・発売した時期がありました。地歌・箏曲に関しても、現在残されている音声資料の大半は、この時期に記録されたといっても過言ではありません。これらの中には CD 化されていないものも多くあり、現在では入手困難な資料になりつつあります。最終回はこれらの LP レコードに注目いたします。

専任教員の活動報告

平成23(2011)年度

後藤 静夫

著作活動

- * 2011・12・19 解説「文楽・義太夫節の伝承と稀曲」、『義太夫節の稀曲の復曲』(平成23年度日本伝統音楽研究センター第2回公開講座パンフレット)、pp.2-3
- * 2012・03・31 論考「語りの力と時間—文楽の義太夫節を考える」、(横山俊夫編著『ことばの力—あらたな文明を求めて』京都 京都大学学術出版会)、pp.165-184
- * 2012・03・31 資料「文楽・義太夫節の伝承・稽古を探る—その2 竹本源大夫」、『日本伝統音楽研究』(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター紀要)第9号、pp.75-93
- * 2012・03・31 解説「初日があくまで」、(国立劇場編『文楽の本』東京 国立劇場)、pp.38-41
- * 2012・03・31 解説「文楽人形鬘・床山(名越昭司氏)の世界」(国選定文化財保存技術記録作成報告書『文楽人形鬘・床山 名越昭司氏のわざと美』大阪 大阪府教育委員会)、pp.6-11

プロデュース活動

- * 2011・11・12 企画・監修「伝統演劇・文楽」三業の実演と解説・講義、京都造形芸術大学通信教育部 総合教育科

目、国立文楽劇場

講演・口述・解説活動

- * 2011・09・11 解説・司会「山車文楽とからくり」山車文楽・からくり公演 知上市文化会館 パティオ花しょうぶホール
- * 2012・03・18 解説・対談「彦六系三味線の芸」鶴澤寛治を聞く会 奈良県新公会堂

講義・講座活動

- * 2011・05・30 「文楽の世界を知る—①」ラスタホール教養大学講師、伊丹市生涯学習センターラスタホール
- * 2011・06・20 同上②、同上
- * 2011・07・5～7 「淨瑠璃や音楽と人形」パペットアーク、東かがわ とらまる人形劇研究所
- * 2011・07・13 「文楽の歴史」文楽応援団研修会①、国立文楽劇場
- * 2011・07・27 「義太夫節の文学的・音楽的構造」同上②、同上
- * 2011・08・10 「さまざまな人形芝居」同上③、同上
- * 2011・08・31 「文楽三人遣い」同上④、同上
- * 2011・09・14 「舞台を支える」同上⑤、同上
- * 2011・10・01 「文楽を解剖する①」追手門学院和学講座、追手門学院大手前ホール

* 2011・10・10 「文楽を解剖する②」同上

* 2011・11・12 「文楽の制作とは」京都造形芸術大学通信教育部 総合教育科目講座、国立文楽劇場

* 2012・01・11 「近世芸能としての人形浄瑠璃・文楽とは」シニアシティカレッジ・アドバンス、大阪南 YMCA

* 2012・01・25 「伝統芸能の世界② 文楽入門」シニアシティカレッジ、大阪教育大学天王寺キャンパス

調査・取材活動

* 2011・04・11 加古川 鶴林寺他 墓碑・記念碑等（兵庫県加古川市）調査

* 2011・04・29～30 讃岐源之丞座他伝統民俗芸能（香川県三豊市）調査

* 2011・05・25 安乘人形浄瑠璃首・衣裳等（三重県志摩市）調査

* 2011・06・25～26 讃岐源之丞座他伝統民俗芸能（香川県三豊市）調査

* 2011・08・06～07 蟹江 須成祭（愛知県海部郡蟹江町）調査

* 2011・10・22～23 讃岐源之丞座他伝統民俗芸能（香川県三豊市）調査

* 2011・12・05 安乘人形浄瑠璃首・衣裳等（三重県志摩市）調査

* 2012・01・30 安乘人形浄瑠璃首・衣裳等（三重県志摩市）調査

対外活動

* 京都大学地球環境学堂三才学林 運営懇話会委員

* 三重県志摩市教育委員会 安乘人形芝居検討委員会委員

* 京都和文華の会 理事

他

竹内 有一

著作活動

* 2012.03.31 編著『常磐津節演奏者名鑑 第1巻—近世1：創流期から幕末期までの太夫方—』（常磐津節演奏者の経歴に関する調査報告書2011年度）、常磐津節保存会、114pp

* 2012.03.20 論文「かっぽれ百態」、細川周平編『民謡からみた世界音楽—うたの地脈を探る—』、ミネルヴァ書房、pp.193-210

* 2011.12.28 編著（共著）『胡弓に関する史料年表—16～17世紀—』伝音アーカイブズ、日本伝統音楽研究センター web サイト

* 2011.09.04 編著『長唄の美と魅力—表現を生み出す力—』、第31回公開講座パンフレット、日本伝統音楽研究センター、22pp

* 2010.10～11 編著『第2回常磐津検定』（問題、解答と解説）、（社）関西常磐津協会

* 2012.01.20 報告（共著）「大会レポート」（東洋音楽学会第62回大会 研究発表2Bに対する考察）、『東洋音楽学会会報』第84号、p.4

* 2011.05 解説「常磐津「月」」（秘曲・新曲サロン75）、『日本舞踊』63巻5月号、pp.24-26

* 2011.05.14 解説「地歌舞：浪花十二月」「箏曲：組歌菜菔」「管絃：盤渉調音取・越天楽・蘇莫者破」「長唄舞踊：汐汲」「肥

後琵琶:道成寺」「長唄舞踊:新曲浦島」、出演者素描「吉村みず輝」「林沙那」「天王寺楽所雅亮会」「若柳吉栄吾」「玉川教海」「西川矢寿夫」、国立文楽劇場第27回舞踊・邦楽公演『新進と花形による舞踊・邦楽鑑賞会』パンフレット、日本芸術文化振興会、pp.1-5

- * 2011.10.01 解説(演目と演奏者)「常磐津節:朝比奈の釣狐」「宮蘭節:江戸の絵姿(おひな)」「地歌繁太夫物:お房」「清元節:喜撰」「河東節:恋桜反魂香」「義太夫節:心中天網島(大和屋の段)」「地歌:青葉」「長唄:安宅勸進帳」、国立劇場第156回邦楽公演『上方の芸・江戸の芸』パンフレット、日本芸術文化振興会、pp.5-9,11-17
- * 2011.10.15 解説「地歌:珠取海女」「長唄:都風流」「一中節:椀久道行」「長唄:静と知盛」「萩江:鐘の岬」「梅道成寺」「清元:山帰り」「地歌:山姥」「地歌:貴船」「一中節:辰巳の四季」、国立文楽劇場第29回舞踊公演『東西名流舞踊鑑賞会』パンフレット、日本芸術文化振興会、pp.6-13
- * 2012.01.01 エッセイ「『常磐津検定』裏ばなし—探究する楽しみ、出題の難しさ—」、『つどい』第36号、(社)関西常磐津協会、p.6

口述活動

- * 2011.09.04 構成・解説・司会「長唄の美と魅力—表現を生み出す力—」、日本伝統音楽研究センター第31回公開講座、京都市立京都堀川音楽高等学校音楽ホール(詳細別掲)
- * 2011.07.07 構成・解説(大西秀紀と共

同)「三代日常磐津松尾太夫を聴く」、平成23年度第3回伝音セミナー、日本伝統音楽研究センター(詳細別掲)

- * 2012.02.21 構成・解説・司会「第6回初心者のための三味線音楽鑑賞講座:常磐津」(浄瑠璃:常磐津和英太夫・常磐津松希太夫、三味線:常磐津菊与志郎・常磐津美寿郎)、(財)清栄会、国立劇場伝統芸能情報館レクチャー室
- * 2011.07.28 鼎談(細川周平・重森三果と)「300年続く『語り物音楽』の魅力」、『聖教新聞』7月28日付
- * (2010年度補遺)2010.04.02 座談会コーディネイト「改装前後の上七軒歌舞練場—北野をどりの地方さんに聞く—」木造劇場研究会、上七軒歌舞練場〈展観〉
- * 2011.09.11 構成・解説「『かつぼれ』の謎を解き、踊る」、日本伝統音楽研究センターギャラリー(詳細別掲)〈講義・教育〉
- * 2011.09.20-10.04 講座「『かつぼれ』の謎を解き、踊る」平成23年度でんおん連続講座D、全3回、日本伝統音楽研究センター(詳細別掲)
- * 2011.10.07-11.11 講座「浄瑠璃の『語り』(常磐津節)を体験する」平成23年度でんおん連続講座E、全6回、日本伝統音楽研究センター(詳細別掲)
- * 音楽学1(前期15回)、京都市立芸術大学美術学部
- * 京都文化学基礎演習Ⅲ(前期15回)、京都府立大学
- * 京都文化学基礎演習Ⅳ(後期15回)、京都府立大学

〈共同研究〉

- * 共同研究「歌舞伎の地方一伝承と演出、歴史と現在」研究代表者、日本伝統音楽研究センター（詳細別掲）
- * プロジェクト研究 2 件・共同研究 1 件、共同研究員、日本伝統音楽研究センター（詳細別掲）

調査・取材活動

- * 常磐津節演奏者の経歴に関する調査（常磐津節保存会）
- * 常磐津節の伝承実態に関わる調査（日本學術振興会科学研究費補助金、研究課題番号 225201445「豊後系浄瑠璃の伝承実態」）
- * 詞章本出版物（浄瑠璃本・うた本）等の書誌調査およびデータ作成
- * 近世邦楽関連の近世版本の市場調査およびその収集・保存・公開に関わる調査
- * 歌舞伎・文楽・邦楽・日本舞踊等の公演・稽古における演奏手法や伝承状況等の調査

演奏活動

（重要無形文化財常磐津節、浄瑠璃方）

- * 2011.04 歌舞伎「釣女」、第 19 回南座歌舞伎鑑賞教室、京都南座
- * 2011.07.29 常磐津節「松島」「俳諧師」、関西常磐津協会第 72 回公演会、国立文楽劇場
- * 2011.09.14 常磐津節「浮無瀬狸々」「芝八景」、NHK-FM「邦楽のひとつとき」
- * 2011.09 歌舞伎「華花西遊記」、九月大歌舞伎、大阪松竹座
- * 2011.10.13 常磐津節「子宝三番叟」「常磐の老松」、常磐津協会創立 65 周年記

念演奏会、国立劇場

- * 2011.10.30 舞踊「鴨川名所綴」ほか、第 26 回国民文化祭 日本舞踊の祭典、祇園甲部歌舞練場
- * 2011.11.12 常磐津節「仮名手本忠臣蔵大序」「常磐松」、NHK-FM「邦楽百番」
- * 2012.01 歌舞伎「積恋雪関扉」、寿初春大歌舞伎、大阪松竹座
- * 2012.02.05 常磐津節「忍夜恋曲者」、芸団協関西協議会公演「芸能サロン みのお歳時記」、箕面市立市民会館

委員・役職等

- * 第 66 回文化庁芸術祭執行委員会審査委員（音楽部門、関西の部）
- * 文化庁国際芸術交流支援事業協力者会議審査委員（伝統芸能部門）
- * （社）東洋音楽学会 理事（総務、西日本支部経理）、情報委員長
- * 楽劇学会 理事

〈学内〉

- * 京都市立芸術大学整備・改革推進委員会施設整備部会員
- * 自己点検・評価委員会委員
- * 広報委員会委員
- * 情報管理委員会委員

所属学会等

（社）東洋音楽学会、楽劇学会、近世文学会、藝能史研究会、歌舞伎学会、国際浮世絵学会、洋学史研究会、長野郷土史研究会、関西木造劇場研究会、常磐津協会、（社）関西常磐津協会

藤田 隆則

著作活動

- * 2011.05 研究報告のレポート(題名なし、2011年3月5日開催、東洋音楽学会西日本支部第251回定例研究会の報告記事)、『東洋音楽学会 西日本支部支部だより』第68号、pp. 7-9
- * 2011.12 紹介文(題名なし、DVDパッケージ表紙の文言)、『DVD 山口鷺流狂言』京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
- * 2012.02 研究発表要旨「能のヘテロリズム—複数の立場の共在(2011年9月24日、日本音楽学会西日本支部における森安未来との共同発表の要旨)』『日本音楽学会西日本支部通信』第2号
- * 2012.03 単著エッセイ「基調講演 仏教(とくに真宗)文化の中の音楽と音声」『第44回 宗教教育研究会紀要』(龍谷総合学園宗教教育研究会)、龍谷総合学園事務局、pp. 33-39
- * 2012.03 単著論文「兼常清佐の民謡論を読む」細川周平編『民謡からみた世界音楽—うたの地脈を探る』ミネルヴァ書房、pp. 105-119
- * 2013.03 上野正章との共編『歌と語りの言葉とふしの研究』京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター、全267p(このうち、単著論文として「Masculinity as expressed through the Distortion of 'Musical' Scale in Japanese Noh Drama Song」、pp. 63-78、そのほか「はじめに」pp. 1-4、を執筆

口述活動

- * 2011.05-07(毎週水曜日、全10回)講義「でんおん連続講座A 能を解剖する—謡の朗読、手付・形付の読解を通じて」23年度前期 京都市：京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター
- * 2011.05.07 研究発表「能の人物の登場場面を分類する—出囃子と音曲形式がもつ意味」能楽学会第10回大会、東京：早稲田大学
- * 2011.06.25 特別授業「日本の伝統音楽の保存における身体への抑制と中毒」京都工芸繊維大学授業「京の文化財学基礎演習」のゲスト講師)、京都市：京都工芸繊維大学、京町屋連携キャンパス
- * 2011.08.07 京都市立芸術大学美術学部オープンキャンパス模擬授業(三島暁子との共同)「図像から音が立ち上がる—伝統音楽の世界から」京都市：京都市立芸術大学
- * 2011.09.24 研究発表(森安未来との共同発表)「能のヘテロリズム—複数の立場の共在」日本音楽学会西日本支部第4回例会
- * 2011.10.15 京都市立芸術大学音楽学部オープンスクール「日本伝統音楽特別講座」における導入発言、京都市：京都市立芸術大学
- * 2011.11.19 京都文化芸術都市創生計画改定に関するワークショップ「Let's talk about Kyoto arts」のファシリテーターの担当、京都市：京都工芸繊維大学、京町屋連携キャンパス
- * 2011.11.20 講演「浄土に響く音声と音

楽」本願寺日曜講演、京都市：本願寺
聞法会館

- * 2012.03.02 Public Lecture, "Primacy of Corporeality in the Transmission of Japanese Traditional Music: Repetition and Indifference." Co-sponsored by Music Department and Reischauer Institute of Japanese Studies, Cambridge, MA: Harvard University, USA. (公開講演：日本の伝統音楽の伝承における身体的第一位性—繰り返しと無関心、ハーバード大学音楽学部およびライシャワー日本研究所の共同主催)
- * 2012.03.03-04 Presentation and Discussion. "Hetero-rhythm in Noh: The Coexistence of Different Parts." The Exploratory Seminar on Rhythm organized by Richard Wolf, Christopher Hasty, and Steven Blum at the Harvard University Music Department, Cambridge, MA., USA. (プレゼンテーションと議論：能のヘテロリズム - 異質なパートの共存、リズムセミナー、ハーバード大学音楽学部)
- *2012.03.06 Public Lecture. "Primacy of Corporeality in the Transmission of Japanese Traditional Music: Repetition and Indifference. " Sponsored by Center for Japanese Studies, University of Michigan, Ann Arbor, MI., USA. (公開講演、ミシガン大学日本研究センター)
- * 2012.03.13 Public Lecture. "Primacy of Corporeality in the Transmission of Japanese Traditional Music: Repetition and Indifference." Sponsored by Bridgewater State University, Bridgewater, MA., USA.

(公開講演、ブリッジウオータ大学)

調査・取材活動

- * 継続中 謡曲・能の囃子の伝承にかかわる調査

学内活動

- * 附属図書館・芸術資料館運営委員会委員
- * 京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師 (2011.04-2012.03)
- * 京都市立芸術大学整備・改革推進委員会目標部会委員 (2011.04-2012.03)
- * 京都市立芸術大学整備・改革推進委員会目標評価ワーキンググループメンバー (2011.04-2012.03)

対外活動

- * 本願寺教学伝道研究センター委嘱研究員
- * 東洋音楽学会理事 (機関誌編集事務局担当)
- * 早稲田大学演劇博物館客員研究員
- * 神戸女学院大学音楽学部非常勤講師 (2011.09-2012.03)
- * 滋賀大学教育学部非常勤講師 (2011.04-2011.09)
- * 東京芸術大学音楽学部非常勤講師 (2011.12)
- * 所属学会 日本音楽学会、楽劇学会、東洋音楽学会、能楽学会、音楽教育学会、芸能史研究会、International Council for Traditional Music, Society for Ethnomusicology

山田 智恵子

著作活動

- * 2011.03.31 編集（日本伝統音楽研究センター部分）『京都市立芸術大学創立百三十周年記念 十年略史』京都市立芸術大学、pp.71-79
- * 2011.11.02 講演要旨「義太夫節の音楽的特質と義太夫三味線」『世界音楽週2011 中国・日本 音楽国際検討会』パンフレット、中央音楽学院（北京）、pp.7-8
- * 2011.12.19 編集『義太夫節 稀曲の復活』京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター主催平成23年度第2回公開講座パンフレット、28pp
- * 2011.12.19 単著エッセイ「開催の趣旨」同上パンフレット、p.1
- * 2011.12.19 単著小論「青山館の音楽的特徴」同上パンフレット、pp.12-13

口述活動

- * 2011.08.21 司会・解説「清元演奏会」清元延柳会主催、西宮プレラホール、解説「旅奴」「権八（上）」「梅の春」「明がらす（上）」「十六夜」「忠信」「隅田川」「玉兔」創作邦楽「淀川名所」舞踊「今津桜翁」
- * 2011.11.02 講演（中国語通訳付き）「義太夫節の音楽的特質と義太夫三味線」『世界音楽週2011 中国・日本 音楽国際検討会』2011.11.02-05 中国北京 中央音楽学院
- * 2011.12.19 企画・制作・司会「義太夫節 稀曲の復活」、日本伝統音楽研究センター平成23年度第2回公開講座、京

都府立文化芸術会館

- * 2011.12.19 対談・聞き手「青山館の音楽的特徴と伝承および復活の方法」豊竹嶋大夫・竹澤園七
<講義・教育>
- * 日本音楽史1（前期15回）、京都市立芸術大学音楽学部
- * 日本音楽史2（後期15回）、京都市立芸術大学音楽学部
- * 音楽学特講h（前期15回）、京都市立芸術大学音楽学部、大学院音楽研究科
- * 伝統芸能演習I-3「邦楽入門」（5コマ、1日）京都造形芸術大学通信教育部和の伝統文化コース、スクーリング
- * でんおん連続講座B「義太夫節の音楽としてのしぐみを理解する-文楽をより深く理解するために」（全10回）、日本伝統音楽研究センター
- * 第25期文楽研修生のための講義「義太夫節」（不定期10回程度）独立行政法人日本芸術文化振興会、国立文楽劇場企画制作課養成係

調査・取材活動

- * 継続 プロジェクト研究「三味線音楽の音楽様式研究-町田佳聲の旋律型研究を中心に」に係わる町田遺品調査
- * 義太夫節の音楽的研究に関する朱入り稽古本等の調査

学内活動

- * 京都市立芸術大学音楽学部非常勤講師（2011.04-2012.03）
- * 京都市立芸術大学評議員
- * 京都市立芸術大学広報委員会委員
- * 京都市立芸術大学サテライト運営委員会委員

* 京都市立芸術大学キャンパス・ハラス
メント防止対策委員会委員

* 京都市立芸術大学整備・改革推進委員
会財務・会計部会員

対外活動

* 財団法人文楽協会評議員

* 独立行政法人日本芸術文化振興会伝統

芸能伝承者養成研修講師

* 京都造形芸術大学非常勤講師（2011.04-
2011.09）

* 清元協会会員

所属学会

日本音楽学会、楽劇学会、東洋音楽学会

彙報

平成23(2011)年4月1日
～平成24(2012)年4月1日

人事 採用と異動

- ◇平成23年4月1日
非常勤講師 三島暁子(新規採用)
- ◇平成24年3月31日
所長 久保田敏子(任期満了)
教授 後藤静夫(定年退職)
非常勤講師 田鍬智志(任期満了)
- ◇平成24年4月1日
所長 後藤静夫(新任)
教授 藤田隆則(昇任)
准教授 田鍬智志(新規採用)
非常勤講師 上野正章(新規採用)
非常勤講師 前島美保(新規採用)

外国人研究員の受入れ

- ◇KLOBUKOVA, Natalia (ナタリヤ・クロブコヴァ)
(モスクワ国立音楽院主席研究員、ロシア連邦)
期間:2012年1月16日～2012年12月15日
国際交流基金日本研究フェローシップ
研究題目:明治期の伝統音楽文化の保存
受入れ教員:藤田隆則

出版物

- 『日本伝統音楽研究』第9号
京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究紀要
京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター編集・発行、2012年3月31日、B5
2段縦組・1段横組 98pp.
〈論文〉
 - *大久保真利子「邦楽調査掛による長唄の五線譜化—事業の実態と再評価—」〈研究ノート〉
 - *上野正章「明治中期から大正期における洋楽器で日本伝統音楽を演奏する試みについて—楽譜による普及を考える—」
 - *齋藤桂「黎明期の新民謡—「俚謡」と「民謡」をめぐって—」
 - *田鍬智志「中央の舞楽と地方の舞楽の旋律様式—箏譜にみる基本旋律と遠州森町十二段舞楽の笛旋律—」〈資料〉
 - *後藤静夫「文楽・義太夫節の伝承・稽古を探る その2 竹本源大夫」
- 『箏曲地歌研究〈楽曲編上〉』
京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究報告6-1
久保田敏子編、2011年9月30日、A5横

組 410pp. 税込¥1,000

『箏曲地歌研究〈楽曲編 下〉』

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究報告 6 - 2

久保田敏子編、2011年11月30日、A5横組 384pp. 税込¥1,000

『箏曲地歌研究〈資料編〉』

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究報告 6 - 3

久保田敏子編、2012年2月29日、A5横組 340pp. 税込¥1,000

『歌と語りの言葉とふしの研究 (Studies on the Text and Melody of Japanese Traditional Music)』

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 研究報告 7

藤田隆則・上野正章共編、京都市立芸術大学発行、2012年3月31日、A5横組 267pp. 税込¥1,000、ISBN 978-4-9906204-3-1

『日本伝統音楽研究センター 所報』

第12号、京都市立芸術大学日本伝統音楽

研究センター編集・発行、2011年6月30日、A5横組 50pp.

DVDビデオ『山口県指定無形文化財 山口鷺流狂言』

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター編集・発行、2011年12月1日、DVD1枚、解説冊子付き、税込¥1,000
内容：I 狂言〈柿山伏〉

土村廣隆（山伏）、吉松高敏（地主）、米本次郎（後見）

II 狂言〈千鳥〉

鈴木太龍（主）、米本太郎（太郎冠者）、伊藤隆（酒屋）、米本次郎（後見）

III 狂言〈鬼瓦〉

小林榮治（主）、米本文明（太郎冠者）、土村廣隆（後見）

上演：山口鷺流狂言保存会（日本伝統音楽研究センター平成22年度公開講座にて）

収録日：平成22年（2010）6月26日（土）

場所：大江能楽堂（京都市中京区）

趣旨：能狂言といえど大蔵流と和泉流が



有名ですが、このふたつに並んで鷺流があることをご存知でしょうか。流儀そのものは消滅しましたが、その芸系は、複数の地方の保存会の人びとによって、今も伝えられています。このうち、山口鷺流狂言保存会は、能楽研究者とも手をたずさえながら鷺流の古い芸態をしっかりと伝えているという点において、地域における伝承のひとつの理想形態であるといえます。大蔵流や和泉流とのちがいを知るための研究資料としてもお役立て下さい。

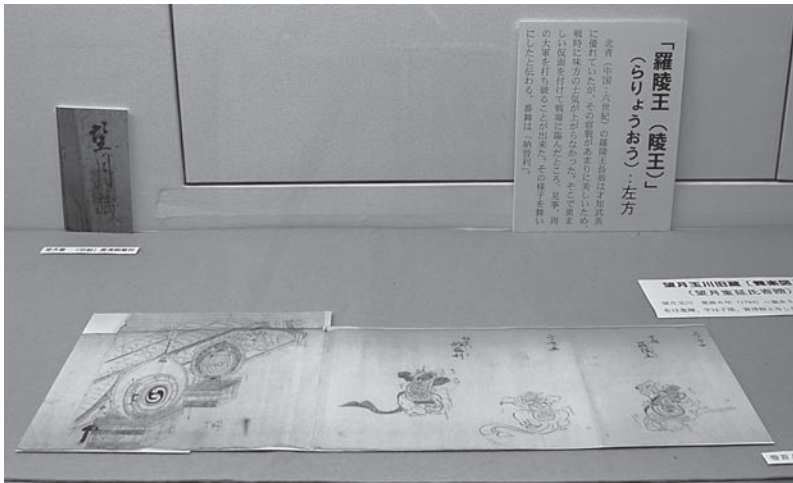
デジタルアーカイブズ

2011年度末現在、インターネット上で公開しているコンテンツ内容は以下の通り。

◇伝音アーカイブズ

- * 音楽文化新聞 記事索引 (上野正章)
- * 祇園囃子アーカイブズ (田井竜一)

- * 桂地蔵前六斎念仏—その特質と伝承をめぐって— (田井竜一)
 - * 画像資料にきく「祇園囃子」(田井竜一)
 - * 胡弓に関する史料年表—16～17世紀— (竹内共同研究) 〈新設〉
 - * 「正本を読む会」報告 (竹内有一)
 - * 箏曲・地歌の歌本 (竹内有一)
 - * 現代邦楽放送年表 (長廣比登志)
 - * 能の地拍子研究文献目録—単行本の部— (藤田隆則)
 - * 『観世・大観世』目次一覧 (大正12年1月—昭和19年3月) (藤田隆則) 〈増補改訂〉
 - * 謡伝書の具体的理解と体系的把握へ向けた基礎作業 (藤田隆則)
 - * 日本伝統音楽研究の真髄に触れる—ゲストと所長による対談集—
- ◇収蔵資料検索データベース
- 以上のほか、SP音源試聴コーナー、プロジェクト・共同研究の報告、催事案内等をインターネットで公開し、随時更新



を行っている。

展 観

◇会場：新研究棟 7階ギャラリー

* 2010.07-2011.07 SPレコードレーベル
に見る 日蓄—日本コロムビアの歴史
構成：大西秀紀

* 2011.08 図像から音がたちあがる—伝
統音楽の世界から—（美術学部オーブ
ンキャンパス「講義体験2」に関連）
構成：藤田隆則、三島暁子

* 2011.09-11 「かっぽれ」の謎を解き、
踊る（でんおん連続講座Dに関連）
構成：竹内有一

* 2012.02 舞楽を描く—望月玉川旧蔵
〔舞楽図〕（日本伝統音楽研究センター
新収蔵資料）を中心として—〈第1期〉
（でんおん連続講座Gに関連）
構成：三島暁子、齊藤尚

◇会場：@KCUA（アクア、本学堀川御
池ギャラリー）

* 2011.08.30-09.04 SPレコードレーベル
に見る 日蓄—日本コロムビアの歴史
構成：大西秀紀

委託研究

本年度の委託研究は、「日本伝統音楽研
究センターが借り受けている研究資料の
デジタル化」というテーマで大西秀紀氏
に委託して実施した。平成22年度、伝音
センターにおいては、市民向けの公開講
座「京観世の伝統」を開催した。そのさい、
収集家等から京観世の歴史をさぐるのに

有益な音源の寄贈および貸与を受けた。
京観世の正統な伝承が消えかかっている
現在、これらの音源の資料価値は高く今
後の研究資料としては欠かせないもの
であるので、オープンリール、カセットテ
ープ音源のデジタル化を行った。

（学術委員会：藤田隆則）

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター 概要 2011

設立の理念

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センターは、日本の社会に根ざす伝統文化を、音楽・芸能の面から総合的に研究することを目指し、2000年に設立されました。

古くから日本の地に起こり、外からの要素の受容を絶えず繰り返しつつも、独自の様相を今日に受け継いできている日本の伝統的な音楽・芸能は、日本語と同じように、日本の、そして世界の貴重な宝です。これらは、維持継承させるべきものであると共に、新しい文化創造のための源泉として発展されるべきものであり、との認識をもちます。

センターは日本の伝統的な音楽・芸能と、その根底にある文化の構造を研究し、その成果を公表し、社会に貢献するように努めます。そのために国内外の研究者・研究機関・演奏家と提携し、成果や情報を共有・交流する拠点機能の役割を果たします。

京都は1200年以上にわたって、日本における文化創造の核であり続けています。このセンターは、伝統的な音楽・芸能を中心とする研究分野で、重要な役割と使命を担い、その核になることを目指します。

主な活動内容

◆資料の収集・整理・保存

* 文献資料（図書、逐次刊行物、古文獻、マイクロフィルムなどの複写・非印刷資料を含む）

* 音響映像資料

* 楽器資料

* 絵画資料

* データーベースなどの電子資料

◆日本の伝統的な音楽・芸能の個別研究

* 専任教員による個人研究

* 非常勤講師（特別研究員）による特定のテーマの研究

* 外部の研究者に、その専門領域に即したテーマで委託する研究（「委託研究」）

◆日本の伝統的な音楽・芸能の共同研究

* 国内外の多くの研究者・演奏家の参加・協力を得て、学際的・国際的な視野で、センターが行う共同研究活動（「プロジェクト研究」「共同研究」）

* センターが外部と共同して行う調査研究

◆活動成果の社会への提供

* 市民向け公開講座・セミナー等の開催

* 紀要・所報・資料集成などの学術出版物の発行

* 電子メディアによる情報発信

研究の視点と領域

- ◆伝統的芸術音楽の歴史・現状・未来をみすえる
- *明治までに成立した伝統音楽の展開と伝承
 - <古代> 祭祀歌謡と芸能（楽器等の考古学的遺物を含む）
 - <上代・中古> 仏教音楽（声明等）宮廷の儀礼・宴遊音楽（雅楽等）
 - <中世> 仏教芸能（琵琶、雑芸、尺八等）武家社会の芸能（能・狂言等）流行歌謡（今様、中世小歌等）
 - <近世> 外来音楽（切支丹音楽、琴楽、明清楽）劇場音楽（義太夫節・常磐津節等の浄瑠璃、長唄、歌舞伎囃子等）非劇場音楽（地歌等曲、三味線音楽、琵琶楽、尺八等）流行歌謡（小唄、端唄等）
- ◆近代社会での伝統音楽の展開をみすえる
- *伝統音楽の発展とその可能性に関する事象の研究
- *伝統音楽の享受と教育に関連する事象の研究
- ◆広い視野で生活の音楽をみすえる
- *民間伝承と日本関連諸地域及び先住民の音楽・芸能の研究
- *生活における音楽・芸能（わらべうた・民謡、祭礼音楽等の民俗芸能）の研究

スタッフ

- ◆専任教員
- 所長：久保田敏子（音楽学、日本音楽史学）
「三味線音楽の変遷と楽曲研究」
- 教授：後藤静夫（日本芸能史）

- 「人形浄瑠璃文楽の実態」「近世語り物の伝承形態」「座敷カラクリ復元の諸相」
- 教授：山田智恵子（音楽学）
「義太夫節の音楽学的研究」「三味線音楽の通ジャンルの音楽様式研究」
- 准教授：田井竜一（民族音楽学・日本音楽芸能論）
「山・鉾・屋台の囃子の比較研究」「六斎念仏の研究」
- 准教授：竹内有一（日本音楽史学）
「豊後系浄瑠璃の伝承実態」「演奏手法に関する実践的アプローチ—常磐津節—」「近世・近代の京都と音楽文化の諸相史」
- 准教授：藤田隆則（民族音楽学）
「中世の歌と語りの作曲法」「能・狂言の演出史」「古典／儀礼音楽の伝承形式研究」

- ◆非常勤講師
- 大西秀紀（特別研究員）
- 田鍬智志（特別研究員）
- 東正子（情報管理員）
- 三島暁子（特別研究員）
- ◆非常勤嘱託員
- 齊藤尚（学芸員）
- 高久直子（司書）

沿革

- 平成3年6月 世界文化自由都市推進検討委員会において、廣瀬量平委員が日本伝統音楽の研究施設の必要性を訴える。
- 平成5年3月 新京都市基本計画「大学・学術研究機関の充実」の「市立芸術大学の振興」の項で、「邦楽部門の新設についても研究する」と言及。

平成8年6月 京都市芸術文化振興計画「教育・研究機関の充実」で、日本の伝統音楽や芸能を研究・教育するための体制を整えることが提唱される。

平成8年12月 京都市の「もっと元気に・京都アクションプラン」の「文化が元気」の項目に、伝統音楽研究部門の設置が位置づけられる。

平成9年4月 実施設計費及び地質調査経費 予算措置

平成10年4月 施設建設費 予算措置

平成10年10月 施設建設着工（工期17ヶ月）

平成11年9月 日本伝統音楽研究センター 設立準備室を設置する（室長：廣瀬量平名誉教授）。

平成12年2月 新研究棟竣工

平成12年4月 京都市立芸術大学日本伝

統音楽研究センター開設

廣瀬量平名誉教授が初代所長に就任

平成12年12月 京都市立芸術大学新研究棟完成披露式挙行

平成16年4月 吉川周平前教授が第二代所長に就任

平成20年4月 久保田敏子前教授が第三代所長に就任

施設

新研究棟6～8階（総面積約1,500㎡）

6階 センター所長室、資料室、資料管理室、閲覧室、個人研究室

7階 合同研究室2、楽器庫、貴重資料庫

8階 個人研究室5、研究員室2、視聴覚編集室、研修室2

編集後記

2012年4月より、本学は公立大学法人になりました。本センター内では、センターの柱として活躍されてきた創設スタッフのひとり、久保田敏子所長が2012年3月をもって任期満了し、名誉教授になられました。代わって、3月に本センターを定年退職した後藤静夫前教授が、新所長に着任いたしました。同時に、田鍬智志准教授を迎えるなど、2012年度は、大学・センターとも新体制・新スタッフでスタートいたしました。ご覧のように、創設期に比べ、本センターの業務は非常に多様化しております。今後とも皆さま方のご支援ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

学術委員会：竹内有一

京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 所報 第13号 2012年6月30日発行 編集 京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター 発行者 〒610-1197 京都市西京区大枝沓掛町13-6 E-mail rc-jtm@kcua.ac.jp http://www.kcua.ac.jp/jtm/ 印刷所 株式会社 田中プリント
--

Research Centre for Japanese Traditional Music

Kyoto City University of Arts
13-6 Ooe Kutsukake-choo, Nishikyoo-ku
Kyoto-shi, 610-1197, Japan
E-mail rc-jtm@kcua.ac.jp
<http://www.kcua.ac.jp/jtm/>

